

北陸中部地方の旅

設計部 部長 西川 徹

1. はじめに

平成 29 年度の社内旅行は、2泊3日の北陸中部地方の旅である。この旅は、高知空港から伊丹空港まで空路で移動し、それから陸路で福井県、富山県、長野県を旅するものである。

主な見所は、時系列に①福井県立恐竜博物館、②立山黒部アルペンルート、③黒部ダム、④信州グルメ、⑤松本城その他と満載で充実した旅となった。

2. 福井県立恐竜博物館

旅の初日は、高知空港の朝一便で伊丹空港に着いた後、陸路で福井県を目差し、昼過ぎに福井県立恐竜博物館に到着した。

子供の頃、化石少年であった私は、この福井県立恐竜博物館の見学を楽しみにしていた。福井県の手取層群は、アンモナイトや恐竜の化石を含む中生界の地層であり、昔から全国的に有名である。

博物館では、多くの恐竜や古生物の化石を分かりやすく展示しており、とても懐かしくそしてワクワクしながら回覧していた。特にひとつの山を大々的に掘削した発掘調査とその結果は、とても迫力のあるものであった。また、私の大好きな三葉虫の化石も多く展示しており、あっという間の回覧であった。



大々的な恐竜の化石の展示

3. 立山黒部アルペンルートと黒部ダム

二日目は、この旅のメインとなる飛騨山脈を横断する立山黒部アルペンルートである。

当然、富山市内には雪は無いが、標高が上がるほど、雪が多く残っており、その景色には驚かされた。この季節、高知県は既に初夏の雰囲気であるが、この一帯は、厚さ 14m 以上の残雪があるのである。

日本は、国土が狭いものの、変化に富んだ季節を楽しめる素晴らしい国であることを再認識することができた。



立山室堂の雪の大谷で記念撮影をする筆者



残雪の峰々に囲まれる黒部ダム湖

黒部ダムは、いわゆる「世紀の大事業」として建設された堤高 186m の日本で最も高いダムである。この高いダムの天端に立って周囲の地形を見渡したが、この急峻な山岳地域にどのようにしてこのような大規模なダムを造ったのかと思うと、先人の土木技術者の熱意と苦勞には感銘してしまった。

アルペンルートとなる立山トンネルや関電トンネルには、いまだに多量の湧水があり、当時の難工事の面影をみる事ができた。



大迫力の堤高 186m の黒部ダム

4. 信州グルメ

旅の楽しみのひとつに、その地方のグルメがある。今回は、立山黒部アルペンルートを下りてきた長野県松本市で信州グルメを堪能することができた。

地ビールからはじまり、馬刺し、山賊焼き（味付けの鳥唐揚げ）、山葵サラダ、蕎麦刺し、信州そばと信州のグルメを食べ尽くした感じである。地元でも美味しい名店でいただいたので、支払った額は秘密である。



濃厚な味と旨味が美味しかった南信州ビール

5. 松本城と旧開智学校

最終日となる3日目は、松本市内の観光である。まずは、現存する日本最古の五重天守を有し国宝となる松本城に上がる。流石に国宝の城のある公園内は、整備が行き届いているとともに、観光ボランティアの方々のホスピタリティが素晴らしかった。海外の観光客も多いようで、年配の観光ボランティアの

方々が、流暢な英語で話しているのには驚いた。

我々の高知城も国宝化の話が上がっている。様々なハードルはあるようであるが、この松本城公園を見ていると地域活性化の良い起爆剤となると思う。



とても整備された松本城公園

旧開智学校は、残念なことに外壁の改修工事中であり、全景を望むことはできなかった。しかし、明治9年に完成したこの校舎内に身を置くと、高い志をもった教師とキラキラとした眼差しの子供達が活気溢れるやりとりをしていた様子を想像することができた。

6. おわりに

梅雨前の比較的天気安定している季節での旅であったが、事前の天気予報では曇りや雨となっていた。しかし、天候の大きな崩れもなく、無事に立山黒部アルペンルートを制覇することができたことは幸いであった。これは「晴れ男」である私の効力であると、内心強く思っている。

今回の旅は、飛騨山脈の素晴らしい自然に接し、一緒に仕事している仲間達と寝食をともにすることができた、とても有意義なものであった。

近年、当社の社内旅行は、平成28年度がグアム、平成27年度が北海道、平成26年度が東京と、新たな見識と良い経験を得ることができた充実した旅行であったが、それだけに会社の経済的な負担は大きい。しかし、これは常日頃、社員全員が会社の経営理念にのっとり一生懸命に仕事し、利益を確保していただいたおかげであり、感謝したい。

H29 社員旅行

技術開発部 楠本 雅博

1. はじめに

社員旅行の行き先となった福井・富山は、初めての旅行先だった。行きたい旅行先の1つであったが機会に恵まれず、今回社員旅行の行き先となり心待ちにした。

長野県松本市には、大学卒業直後に住んでいたことがある。長野道は開通しておらず、中央道の伊北 IC から塩尻峠を越えていた。その後 30 年間訪れたことがなく、街並みや山並みがどのように変わったか興味があった。

2. 福井県立恐竜博物館

今回の旅行で最も行きたかったのが、この恐竜博物館である。恐竜マニアには聖地である。隣接する永平寺を訪問できなかったのは残念であるが、個人的にどちらかを選ぶとすれば、やはり恐竜博物館を選んだであろう。

恐竜の化石には自然の偉大さを感じるが、展示物の中で私が最も興味を持ったのは写真-1 に示す“魚の群れ”の化石である。数百匹の魚はそのほとんどが左方向を向いて泳いだ状態で石化している。「大量死を示す」という注釈が付いている。

動物の化石は死んだ状態という私の概念を覆すものであった。どのような条件であれば、このような化石ができるのであろうか。魚に驚いたような気配はない。



写真-1 “魚の群れ”の化石

恐竜博物館でお目にかかりたかったのが SNS で有名な”恐竜博士（写真-2）”である。

以前はメガネをかけていなかったが、赤い鯖江のメガネをかけていた。

恐竜博物館は、予想どおり細かな所にも心遣いが行き届いており、恐竜マニアのリピータが多い理由だと思う。



写真-2 恐竜博士

3. 立山黒部アルペンルート

土木技術者には有名な観光地である。内容については、同行者のレポートにあると思うので本レポートでは書かない。

立山黒部アルペンルートは、図-1 のようにいろいろな交通手段を乗り継いでゆく。個別に開発されたルートを繋ぎ合わせたために、このような交通形態になったと考えられる。

各交通手段の乗り換え時には、待ち時間がある。この待ち時間に売店を利用する観光客が多かった。観光地として見た場合、非常によくできたシステムではないかと思う。

天候は残念ながら晴天ではなかったが、標高 2,450m の室堂では雪の上を歩くことができた。また、遠目ではあるが自然の雷鳥を見ることができ幸運であった（写真-3）。



図-1 立山黒部アルペンルート縦断面図



写真-3 多分雷鳥の写真

私は旅行先で積極的に写真を撮る性格ではないが、タブレット端末を持つようになり、必要最小限の写真は撮るようになった。

Android 端末を用い、Google Drive 経由でデータを保管しているが、Google Drive は保管した画像に対して勝手に加工を行い、「こんな写真ができました」のようなメッセージがくることがある。

今回の旅行写真では、写真-4 のようにパノラマ写真を自動生成してきた。10 年前であれば数万円のソフトウェアが必要であった。画像処理に関しては、ここ数年で飛躍的に進歩していると実感した。



写真-4 Google Photo による自動生成写真

4. 国宝松本城

旅行最終日の松本市は快晴であった。30 年ぶりの松本市には、大きく変わっている場所と、ほとんど変わっていない場所があった。

大きく変わっていたのは、松本駅周辺の繁華街である。30 年前は夜 10 時を過ぎると人の数が激減するような状況であった。

現在、架空線は地下埋設され電柱はない。路面にはインターロッキングが敷設され、都会的なイメージを受けた。

北に白馬、南に諏訪湖、東に霧ヶ峰、西に乗鞍・上高地という絶好の観光拠点であり、今後も観光をメインとして発展するだろう。

ほとんど変わっていないのが山並みである。観光地として開発され、自然が失われているのではないかという不安もあったが、昔と同じ山並みを見ることができた。

また、国宝松本城もほぼ昔のままであった。周囲の公園はきれいに整備されていたが、相変わらず狭くて急な階段は当時のままである。

城山を持たない松本城であるが、それでも 30 年前は遠くからでも見ることができた。現在はビルの間からしか見ることができず、少し残念である。



写真-5 国宝松本城

5. おわりに

私が参加した第 2 班は若い社員が多い班であった。旅行にはトラブルはつきものである。私自身、ヨーロッパ旅行の際に、イギリスのヒースロー空港でスーツケースをロストした。スーツケースは 4 日後に返ってきたが、着替えがなかった私は、下着からジャケットまで総額 17 万円のフル・アルマーニというゴージャスなファッションだった。

若い社員が多いという事で、当初はトラブルが起こらないかと不安もあった。集合時間に若干遅れる者もいたが、全員の協力のお陰で、大きなトラブルもなく、無事に旅行を終えることができた。

第 2 班と一緒に旅行ができた各位に感謝の意を表したい（拝）。

立山黒部アルペンルートの旅

総務部 小野 明彦

1. みくりが池

雪のちらつく中を歩いて、伝説を秘め青く澄んだ湖面を期待してみくりが池を訪れました。すっぽりと雪で覆われていた湖面が、奇跡的にコバルトブルーの姿を見せましたが、感激したのもつかの間、あたりに霧が立ち込めてたちまち見えなくなっていました。時間にして1・2分だったでしょうか。近づいて見ることできたのは本当に奇跡的な瞬間に思えました。



みくりが池

2. 黒部ダム

黒部ダム駅から、ダム展望台へ上るのに、220段の外階段を上りますが、途中、階段の隙間から眼下にダムの展望が広がり、恐怖で足がすくみそうでした。なんとか展望台まで辿り着き、数名で記念写真に納まり達成感を覚えました。黒部ダムから関西への電力供給が始まり、日本経済の成長を促進させたのですが、世紀の大工事は7年もの月日を費やされ苦難の日々であったことを想像すると感慨深いものがありました。展望台からは、立山連峰をはじめ、北アルプスの大パノラマを楽しむことができました。



黒部ダム展望台

3. 松本城

城巡りが好きな私は、現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝・松本城見学を楽しみにしていました。戦国時代そのままの天守が保存されているような城は、黒と白のコントラストがアルプスの山々に映えて見事な景観でした。しかし、松本城の案内板で、国宝5城は、現存する12天守のうち2015年に追加指定された松江城を加えた5城、松本城・犬山城・彦根城・姫路城・松江城であることを初めて知り驚きました。いつかまた、まだ見ぬ松江城を訪れる機会を持たなければと思ったことでした。



松本城

4. まとめ

松本市で、信州人が愛する馬刺しと地酒を楽しむことができたのもいい思い出となりました。

なかなか訪れることのない「立山黒部アルペンルート」の旅は良き思い出となり、大いにリフレッシュできましたことを感謝申し上げます。

立山黒部アルペンルートの旅

総務課 山本 幸栄

はじめに

平成 25 年の創立 50 周年を機に社内行事として慣行されてきた研修旅行もはや 5 回目を迎えることとなりました。

今年の旅行の行先が以前から 1 度は行ってみたいと思っていた立山黒部アルペンルートに決定した時、実はちょっと喜んでいただけではなかったと思います。期待に胸を膨らませていざ出発です。

1 日目

生憎の雨模様の初日でしたが福井県鯖江市で昼食のカニ釜飯をいただき最初の見学地の「恐竜博物館」に到着する頃には青空も顔をのぞかせてくれました。ここは国内初の恐竜展示博物館として平成 12 年にオープンし、恐竜の全身骨格が 44 体も展示され



恐竜博物館

ています。

映画「ジュラシックパーク」さながらの迫力に圧倒されそうでした。地球 46 億年の歴史のうち恐竜が存在していた時代というのは直近の 2 億年前～1 億年前のようです。それから比べると私たち人間の歴史なんてほんとにまだ始まったばかりのちっぽけなものなんだなあ、と改めて思いました。

2 日目

翌日はいよいよ立山黒部アルペンルート



雪の大谷

「なんとかなるだろう」と高をくくり薄手の上着 1 枚を羽織っただけの格好です。ただ寒い！の一言でした。

立山から黒部ダムまでの行程で幾つかの乗り物を使い継ぎました。ケーブルカー・トロリーバス・ロープウェイなど急こう配を



黒部平駅

短時間で観光客が移動できるような工夫がされており、平日にもかかわらず駅はどこも観光客でごった返していました。このルートの人気のほどがうかがえます。苦勞してたどりついた黒部ダムは圧巻でした。山のお天気は変わりやすくここまでは灰色の雨雲が垂れ込めていたにもかかわらず今は晴れ渡り、遠くの山々がやっと「ようこそ、いらっしやい。」と言っ

に挑戦です。この旅行で 1 番悩んだのが服装です。高知は初夏の陽気で半袖でも良い日が続いていましたが立山黒部は 10℃前後とまだ冬の体感だと聞いていました。それなのに横着な私は

「なんとかなるだ

ろう」と高をくくり薄手の上着 1 枚を羽織っただけの格好です。ただ寒い！の一言でした。

立山から黒部ダムまでの行程で幾つかの乗り物を使い継ぎました。ケーブルカー・トロリーバス・ロープウェイなど急こう配を

短時間で観光客が移動できるような工夫がされており、平日にもかかわらず駅はどこも観光客でごった返していました。このルートの人気のほどがうかがえます。

苦勞してたどりついた黒部ダムは圧巻でした。山のお

天気は変わりやすく

ここまでは灰色の雨雲が垂れ込めていたにもかかわらず今は晴れ渡り、遠くの山々がやっと「ようこそ、いらっしやい。」と言っ

てくれているようです。



立山連峰



黒部ダム

黒部ダムは建設に7年という歳月、延べ1000万人の労力、171名の尊い犠牲をはらい完成しました。最難関の大破碎帯を7ヶ月間かけて掘削し関電トンネルが開通した時の歓喜は想像以上だったと思います。奇しくも竣工式が行われた昭和38年は「第一コンサルタンツ」が誕生した年であり、黒部ダムも50歳を超している計算になります。「まだまだ現役で頑張ってくださいね。」と思わず声をかけたくなりました。

最終日

最後の日は松本市内を観光しました。



国宝松本城

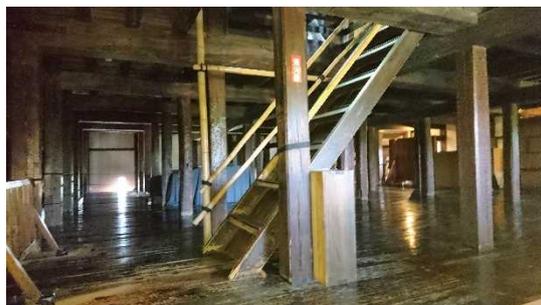
ホテルをAM8:30に出発し、5分ほどで美しい庭園に囲まれた国宝松本城に到着しました。現存する日本最古の五重天守を持ち、戦国時代を生き抜くための創意工夫が随所に見受けられる建物です。壁の厚さは鉄砲の攻撃に備え20~30cmもあり、矢狭間・鉄砲狭間が合わせて115ヶ所もあります。



矢狭間



急な階段



階段の勾配も急で(55°~61°)敵が楽に上がって来られないようにつくられています。エレベーターやエスカレーターに慣れ親しんだ現代人にとっては考えられない不便さです。いつも身の危険を感じながら生きていくとはどんなものだったのだろうか?と数々の展示品を見ながらいつのまにか感慨にふけていました。彼らには400年後の世界で自分たちの命をかけた城が観

光施設になってしまうことなど想像さえできなかったであろうと思い、平和な時代に育った自分に改めて感謝しました。



忍者と私

今回の旅行では人間の技術力の高さや器用さに何度も感動させられました。黒部ダムにしても松本城にしてもその時代時代の最高レベルの技術力で臨み、完成させたものだと思います。人類の歴史がまだ浅いとしてもその中身はとても濃いように思います。

この旅行での最後の技術力に出会ったのは信州・石井味噌さんでした。国産大豆を使用した純天然醸造の味噌づくりの伝統を守り続けている会社です。



杉桶

「三年味噌に余念なし」という言葉どおり三年熟成のお味噌を作り続けています。機械化がすすむ一方で未だに杉桶を使い、ほ

とんどの行程を手作業で行っています。このこだわりこそが忘れてはいけない、次世代に引き継がなければならない技術力だと思いました。私の家でも信州味噌を愛飲しています。あのまろやかな味がこのようにして作られていることがわかり、良い勉強になりました。

2泊3日の駆け足での旅でしたが良く学び、良く遊び、良く食べ、充実した時間を過ごすことができました。もし機会があれば今度はもう少し時間をかけてゆっくり訪れたいと思います。

立山黒部アルペンルートの旅

総務課 高橋 祐也

1. はじめに

今年の社員旅行は、立山黒部がメインの2泊3日の旅だった。私にとっては初めての北陸地方への旅だったため、行く先全てが初めての観光で非常に楽しみにしていた。しかし、旅行中の天気を確認すると三日とも雨。不安を感じながらの出発となった。

2. 一日目

初日はあいにくの雨。朝早くに高知龍馬空港から伊丹空港へ。その後、昼食会場の釜めし専門店に向けてバスで出発した。途中、リフレッシュ工事の渋滞により、予定より1時間遅れての昼食となったが、豪華なカニ釜めし御膳を美味しく頂くことができた。



ようやくありつけた食事(カニ釜めし御膳)

昼食後は、1時間程バスで移動し、一日目のメインともいえる富山県立恐竜博物館に到着。館内はとても綺麗かつ広い空間で、動く恐竜や巨大な恐竜の化石等が展示してあり、その展示物の多さとこだわりを感じる展示手法に圧巻でした。あまり恐竜に興味のなかった私でも、古代へタイムスリップしたかのように夢中になり、あっという間の一時間だった。



迫力ある展示に圧巻

3. 二日目

なんといっても、二日目が今回の旅行の醍醐味である黒部ダム観光。高さが186mで日本一を誇るアーチ式コンクリートダムである。ケーブルカー、高原バス、トロリーバス、ロープウェイ等様々な乗り物を使い継ぎ、黒部ダムに向かった。途中の室堂では、みくりが池を一目見ようと雪の積もる道をゆっくりと歩くその道中、奇跡的に国指定の特別天然記念物である雷鳥を拝むことができた。肝心のみくりが池はというと、ほぼ残雪に覆われていたが、みくりが池周辺の山々は壮大で感動的だった。



雷鳥発見!!



みくりが池を背景に記念撮影

黒部ダムでは、時期的に大迫力の放水を見ることは出来なかったが、野外階段 220 段を駆け上がった先には北アルプスの大パノラマを一望でき、ダムのスケールの大きさに驚いた。



展望台から見た黒部ダム

松本での夕食は、夜景の綺麗なオシャレなお店で、普段なら躊躇するであろう A5 ランクの信州牛ステーキを注文した。口で溶けるほど柔らかい肉に感動しつつ、目の前に広がる景色を楽しんだ。



洒落たお店で贅沢な晩ご飯

4. 三日目

最終日は、天守が国宝指定されている松本城観光。城内は階段が急で天井も低く、はしごを登るような感覚であったが、展示されている鉄砲の種類も多く歴史的価値を感じるお城だった。最上階からは松本市内を眺めることができ、景色も素晴らしかった。



天守が国宝指定された松本城

5. おわりに

今回の社員旅行はバス移動が多く、体力的には疲労を感じたが、自然の雄大さや歴史を直に感じることでできた非常に有意義な2泊3日の旅だった。今回の旅行を計画して下さった親睦会メンバー及び関係者の方々に感謝いたします。ありがとうございます。

2泊3日立山黒部アルペンルートの旅

営業部営業課 森下昌裕

1. はじめに

旅立つにあたり、一抹の不安を抱えながらの出発でした。それは第一班で、旅行中に高山病にかかり苦しんでいた人がいたと聞いていたからです。その症状を聞いて、とてもじゃないけれど楽しみより不安の方が大きな旅の始まりでした。

2. 一日目

バス移動中で、渋滞にもまきこまれ、予定より一時間近く遅れてお昼の釜めし専門店へ。普段食べない釜めしであったこと、遅い昼食であったこともあり食が進みました。



昼食にお酒と、すっかり満足し、いざ福井県立恐竜博物館へ。

想像以上に本格的な博物館であり、童心に還り気持ちが高まりました。



もう少しじっくり見ていたいなという思いがありましたがタイムオーバーとなり一路、宇奈月温泉へ。

旅館へ着いた後はお待ちかねの宴会。



飲んで歌って、盛り上がりました。

3. 二日目

立山黒部アルペンルートの移動。眠たい目をこすりながら、特に山に登り始めてからは、誰かが「眠ったら高山病になりやすい。」という言葉を受に受け、眠らずになんとか室堂へ到着。





室堂で見たみくりが池は、予想以上にエメラルドグリーンに輝き、参加して良かったと思わせる素晴らしい景色でした。



そして、一行は今回の目玉である黒部ダムへ。



迫力の有る風景に圧倒されながら220段の階段を登って展望台へ。着いた頃には、息切れが激しく、空気の薄さを感じました。



4. 最終日

まずは松本城へ。1番驚いたのは、城の美しさより、天守閣への階段の角度でした。階段というか、ハンゴに近い感覚。敵に侵入、攻撃されにくい構造に感心しました。

最後は、重要文化財である旧開智学校を訪問。建物は明治時代の代表的だったという擬洋風建築のため、洋風か和風なのか分からないデザイン。第一班の時には無かった、改修用の足場が設置されていたため、全景が見られずに残念でした。



5. おわりに

不安のスタートだった今回の社員旅行。終わってみれば、記憶に残る楽しい旅路となりました。

2017 社員旅行記～立山黒部アルペンルート～

河川砂防課 村岡 志郎

～出発～

私は今回の社員旅行先が「立山黒部アルペンルート」に決まった瞬間、「やった！」と思った。

それは、社員旅行先の希望場所として応募し続けていつも落選していたからである。

映画「黒部の太陽」で有名な黒部ダムは、土木技術者の先輩が苦勞して築き上げた土木遺産の一つとして、一度は自分の目で拝見したいと思い続けてきたこともあり、期待しつつ高知空港を出発した。

～1日目 (5/18)～

福井県立恐竜博物館

高知空港を出発して約5時間で到着した恐竜博物館は、恐竜のタマゴのような建物であった。緑が映える自然の中で、その物体は一際、異質を放っていた(写真1)。中に入ると恐竜の化石や実物大のジオラマが展示された空間や、地球の歴史学習空間に分かれ、タイムスリップした感覚に陥る(写真2)。私は、こういった施設を訪れる度に、地球の歴史と人間活動の時間軸について考えさせられる。

到着前に昼食で頂いた釜飯は、バスの渋滞で少し硬くなっていたのが悔やまれた。



写真1：博物館の概観



写真2：館内の様子

宇奈月温泉(延対寺荘)

旅行の楽しみは、なんと言ってもご当地グルメと宴会である。私は同部屋の友人とともに宴会前に近くの酒屋に走り、宴会後の酒とつまみを確保し、足早に温泉に浸かり宴会に挑んだ。そこには、高知では見慣れない食材に舌鼓を打った(写真4)。

日頃、話す機会が少ない若手社員や他部署の方との会話は、酒も手伝い大いに盛り上がり親睦が深められたことは言うまでもない。



写真3：旅館からの風景



写真4：ご馳走写真

～2日目 (5/19)～

いよいよ今日は立山アルペンルートが体験できると朝からテンションが上がっていた。室堂まではケーブルカー(写真5)や立山トンネルトロリーバスなど珍しい乗り物に揺られて到着した。道中で見た2千m級の山並みは人生初体験で、そのスケール感に圧倒され、山に「神が宿っている」と感じ思わず手を合わせたくなる心境であった。また、山頂の気温は6°C程度であったが、雪が溶けずに残っていることに驚いた。



写真4：立山駅写真



写真5：立山ケーブルカー

雪の大谷

「雪の大谷」の映像は、テレビや旅行雑誌でよく拝見していたが、実物は想像以上に迫力があり、小心な私はいつ崩れてこないか気がかりであった(写真6)。また、自分がその場所に立っていることの違和感と体験出来た喜びを痛感した。近くで見ると排気ガスで壁表面が黒ずんでいるのが少し残念に思えた。雪の壁(16m_5階建てビルに相当)は、道路測位システム(GPS)で道路の位置を正確に割り出し、ブルドーザで雪面をカナで削り落とすように1週間から10日をかけて除雪することである。室堂ターミナル前には除雪機「熊太郎」が展示されている(写真7)。



写真6：雪の大谷



写真7：除雪機「熊太郎」

黒部ダム

黒部ダムは、高さ186m、長さ492m、総貯水量2億m³のアーチ式ドーム越流形式ダムである。崇高な北アルプスをバックにそそり立つ姿は雄大で気持ちがいい(写真8,9)。戦後日本の急成長時において、関西の電力不足を解消するため513億円の巨額が投じられ、7年もの月日を費やし延べ100万人の人々と171名の尊い犠牲により昭和38年に完成した。現在の土木技術でも困難な工事を知恵と工夫と熱意で成し遂げた先人の行動に敬意を表する次第である。



写真 8 : ダム南側に見える雄大なアルプス山脈の眺望



写真 9 : 黒部ダム全景



10 : 殉職者慰霊碑

黒部ダムは、年間 100 万人を越す観光客で賑わう観光スポットになっている。観光放水量は 10t/秒で、水流分散型バルブにより水流を霧状に拡散して河床への影響をやわらげている（写真 11）。観光放水時期から外れていたためその勇姿を拝むことが出来なかったことが今回の旅行で悔やまれるところである。土産売場で見つけた「ハサイダー」は、“くろよん”建設最大の難所であった関電トンネル工事での 80m におよぶ大破砕帯をもじったもので、商魂魂に思わず失笑してしました（写真-12）。



写真 11 : 観光放水状況



写真 12 : ハサイダー

～3 日目 (5/20)～

最終日は快晴で、国内で最も標高が高い県庁所在地である長野県（標高 371.3m）でもとても厚い日となった。ホテルの朝食バイキングで欲を出している食べ過ぎ、少し辛いスタートとなった。

松本城

松本城は、安土桃山時代末期から江戸時代初期に建造され、天守が国宝指定された 5 城の一つである。概観は黒く市民からは別名烏城と呼ばれているそう（写真 13）。

以前から城の色が白と黒があることに疑問に感じていたことを思い出し、旅行から帰り調べてみた。関ヶ原の戦いを境に黒白キツパリ変わったそう

で、黒い城は豊臣秀吉時代、白い城は徳川家康時代に建造された城とのことである。建築技術の進歩により、防腐剤が柿渋や黒漆から火災に強い石灰に変わったのが原因であることが解った。これも旅をして得られた知識である。城内は狭く急な階段で構成されているところは一般的な城の造りであった。各階には、鎧、甲、刀などが展示されていたが、火縄銃などの鉄砲が多いのが印象的であった。



写真 13 : 松本城の外観

旧開智学校

旅行最後に訪れたのは、国内で最も古い小学校のひとつで重要文化財指定された旧開智学校である。

明治 5 年に筑摩県学を母体とした開智学校は、東西南北の風見を配した八角塔がそびえ立ち、舶来のギヤマン（ガラス）がちりばめられた白亜の広大華麗な校舎である。校舎内は、当時のそのままの教壇や机、椅子を設置した教室や、教科書が展示されており、大変、興味深く拝見した。開校から昭和 38 年まで 90 年間にわたって使われた旧開智学校の前に現在の開智小学校が建てられている光景は、時代の変遷を見た思いであった。かすかな記憶で残っている懐かしいものを発見したので思わず写真撮影した（写真 14）。



写真 14 : 石炭ストーブ（左）とガリ版印刷機（右）

～旅を終えて～

今回の旅行は、文頭に述べた理由から誇大表現でなく、私の夢が一つ叶った思いである。

旅行から帰還すると、いつも自分だけいい思いをしているような少し罪悪感に陥る。日頃からサポートしてくれている家族と違う雰囲気でも名所を旅行したいと思う。末筆であるが、旅行を企画、運営していただいた全ての方に感謝する次第である。

ありがとうございました。

社員旅行（黒部アルペンルート他）

河川砂防課 富永敏絵

1. 出発

5月25日(木), 7:00に高知龍馬空港に集合。あいにくの雨だったが、旅先で天候が良くなることを願って傘を持たずに出発した。

伊丹空港からバスに乗り換え、福井に向かった。名神高速道路は、ちょうどリフレッシュ工事中でかなり渋滞しており、予定より1時間遅れで昼食会場の「釜藏」に到着した。



1日目の昼食

味は良かったが、ご飯が軟らかいのが残念だった。

2. 恐竜博物館

昼食後、福井県の恐竜博物館を見学した。

私は、これまで恐竜の化石や骨などは見たことがなかったので、まず、その大きさに驚いた。恐竜の他にも、植物の化石や鉱石も多く展示されており、もう少しゆっくりと見学できればと思った。

展示されているものは古代のものだが、博物館はとても近代的な建物で不思議な感じがした。



博物館内

3. 宇奈月温泉

夕方、1日目の宿泊地に到着した。昔ながらの静かな温泉地であった。夕食まで時間があつたので、旅館の周囲を散歩した。途中、足湯を見つけたので入ってみた。お湯は40度と書かれていたが、もっと熱いように感じた。我慢してしばらく座っていたら、足が軽くなったような気がした。



足湯

夕食もおいしく頂き、カラオケなどで楽し

く過ごした。楽しみにしていた温泉は、21時以降なら露天風呂に入ることができるということで、夕食後に利用した。ゆっくりと入ることができ、一日の疲れを取ることができた。

4. 黒部アルペンルート

2日目は、黒部アルペンルートを一日かけて富山から長野に向かう工程だった。

ケーブルカー、バスを乗り継ぎ室堂（標高約2,450m）まで一気に上がった。標高が上がるにつれて景色がどんどん変化し、雪が見え始め、最後は雪しか見えなくなった。

車酔いしたのか標高のせいなのか不明だが、少し気分が悪くなった。昼食を控えめに取り、雪の大谷まで歩いた。壁の最高高さは14mで、間近で見ると圧倒された。

思ったほど寒くなかったが、天候が悪く周りの山を全く見るができなかったのが残念である。

外を歩いているうちに体調は戻ったが、大谷からバス乗り場に戻るまでの坂道が平地と比べてとても息苦しく辛かった。少し階段を上ったりすると息苦しいという状態が何故か高知に帰るまで続いた。



雪の大谷

大観峰に着くと、室堂とは打って変わって晴れていた。展望台から見る景色は絵はがきのように、ケーブルカーを待つ時間があっという間に過ぎた。



大観峰展望台からの景色(中央山裾が黒部ダム)

黒部ダムでは堰堤の天端を通りながら全体を眺めることができたが、昭和の半ばにこのような建造物を作った技術に感服するばかりである。高所恐怖症の方は下を覗くことができないと言っていた。事前に黒部ダムのことを勉強することもなく現地に行ってしまったのだが、本当は他にも見るべき箇所があったかもしれないと思った。

時期が外れていたので放水は見られなかったが、迫力がまた違うのだろうと感じた。



黒部ダム

黒部ダムの前後に乗ったトンネルトrolleyバスはダム建設のために作られたものだと説明を受けた。今でも専用車両しか黒部ダムには入れないということで、今でこそ観光地にはなっているが、建設当時や計画段階での関係者の苦労を思うと気が重くなった。慰霊碑には、除雪や転石除去の作業がまだ終わっていないということで近くに行くことができなかった。

ダムを見学し始めた時は晴れていたが、30分もすると曇ってしまい、山の天気の変わりやすさも実感することができた。

扇沢からは、再びバスに乗り2日目宿泊予定の松本市に向かった。午前9時に立山駅を出発してから昼食時以外はずっと立ちっぱなしだったため疲労困憊で移動中は眠ってしまった。この日の夕食は自由で、同班の女性8名で地元料理が食べられる近くの居酒屋に向いた。馬刺しを初めて食べたが非常においしかった。

5. 最終日

前日の晩は雨が降っていたが、3日目はとても良い天気だった。まず宿泊ホテルからほど近い松本城を見学した。

国宝のお城を訪れるのは初めてで、展示物や建物自体に歴史を感じることができた。場内の庭はサツキが満開でとても綺麗だった。松本城には月見櫓があり、天守閣と一体で建築されているのはこの城だけだという。月見櫓には気持ちのよい風が吹いており、しばらくそこで休憩した。



国宝 松本城 (○印は月見櫓)

松本城を出発し、旧開智学校を見学した。明治初期の洋風建築物で、子供のために地域の方によって設立した学校であると説明があった。洋風建築とはいうものの、玄関の飾りには天使や龍が施されており和洋中織り交ぜた感じがあって面白かった。学校内には教科書や遊び道具など当時の生活が分かる様々な品が展示されていた。講堂はスタンドグラスや照明が教会のようであった。



旧開智学校 講堂

6. 終わりに

今回の旅行は初めて訪れる場所ばかりで、とても良い思い出となった。標高2,000mを越えるという体験もできたが、自分の体力のなさを痛感することにもなった。

無事に旅行を終えることができ、同じ班の皆様と添乗員さん、ありがとうございました。

社員旅行記

設計部 河川砂防課 生田万祐子

1. はじめに

今年の社員旅行は、立山黒部アルペンルートを中心に北陸の旅となる。人生で一度は行きたいと思っていた「黒部ダム」は楽しみでありつつも、極度の寒がりである私は雪山の寒さへの不安から、気が付くと防寒具をあれもこれもとスーツケースに詰め込んでいた。

5月25日、第2班33名は小雨の降る中2泊3日の旅に出発した。高知空港を飛び立ち伊丹空港からバスにゆられ黒部を目指す。

2. 恐竜博物館

福井県立恐竜博物館は福井県勝山市にある恐竜を中心とする地質・古生物学博物館である。博物館に行く道中の公園等にも様々な恐竜のモニュメントが点在していた。卵形の大きな銀色の建物は、太陽の光を反射させ、遠くからでも目立っていた。



恐竜による恐竜の研究…シウルである

内部には恐竜の骨はもちろん、巨大なものや動くものなど沢山の模型も展示されていた。ティラノサウルス、ディプロドクス、トリケラトプス、ステゴサウルス…。まさに小さい頃に見た、「ジュラシック・パーク」の世界である。特にディプロドクスの骨の標本のスケールの大きさには圧倒された。これは大人が楽しめるのもうなずける。



ダイナミックな恐竜たちの標本

3. 宇奈月温泉

宇奈月温泉は、有名な黒部峡谷のトロッコ観光の拠点となっている。温泉好きな私が個人的に楽しみにしていたスポットである。



足湯で真っ赤に

温泉街の規模は富山最大で、街の中に駅もあった。それほど賑わいは感じなかったが、おしゃれなカフェや新しい建物の観光施設などもあり、時間があればゆっくり楽しむことが出来そうである。

今回泊まらせていただいたのは「延対寺荘」という旅館である。建物はあまり新しくはないが、サービスもよく清潔感があり、老舗旅館の雰囲気を感じられた。また、黒部川に面しているため、川の流れを部屋からも露天風呂からも眺めることができる。夜の宴会では、明日に備えてお酒は控えるつもりがついつい上司と話に花が咲き、だいぶ酔いがまわってしまった。露天風呂付きの大浴場は、もちろん夜も朝もじっくり堪能させていただいた。宇奈月温泉のお湯は透明無味であるが、

美人の湯として有名とのことだ。女性にはうれしい効能である。

4. 立山黒部アルペンルート

2日目はいよいよ立山黒部アルペンルートを巡る。貸切バスで立山駅まで行き、そこからは乗り物を乗り継いでのコースとなる。立山駅から室堂までは、ケーブルカーとバスで移動した。ケーブルカーでは新緑の爽やかな風景が続いていたが、バスに乗り換え室堂に近づくにつれ、辺り一面雪の高原となった。両側にそびえる雪の壁は、バスの中からでも圧巻だった。今年の雪の大谷の高さは最高19mにもなり、私たちが訪れた日でも14mという高さの雪の壁が残っていた。あいにく室堂は雲に覆われ、山からの景色はほとんど見えない状況だったが、季節外れの雪山に寒い寒いと騒ぎつつも思いの外はしゃいでいた。かわいい雷鳥を見られなかったのが唯一の心残りである。



雪の大谷を沢山の観光客が見に来ている

室堂からロープウェイやケーブルカーを乗り継いで、いよいよ黒部ダムに降り立った。その頃には天気もすっかり回復し、綺麗な山並みと青い大きな黒部湖の姿が見えてきた。

黒部ダムはアーチ式コンクリートダムで186mという日本一の高さを誇っている。特にトンネル内の破碎帯の突破の話は有名であるが、残念ながらトンネルトローリーバスは非

常に混雑していたため破碎帯を見ることはできなかった。この破碎帯の突破には9ヶ月もかかったとのことだが、実際にはこのトンネル工事はダム建設に伴う道路整備での話である。しかしあまりに難工事となったため、「黒部の太陽」などメディア化も多くされている。そして7年という歳月を経て黒部ダムが完成した。



山の青と湖の青のコントラストが美しい



恐怖と戦いながら上った展望台からの黒部ダム

天気予報は曇り時々雨といった予報であったが、幸いにもあまり雨に降られる事も無く行程を終えることができた。まだ放水期間中ではなかったのでダムの放水は見る事ができなかったが、次は是非迫力満点のダムの放水の様子を拝みに訪れたいと思う。

5. 松本城・旧開智学校

松本城は国宝指定されている5つの城の一つで、黒塗りの天守閣で有名である。明治維新後解体の危機に瀕したが、地元民の尽力により難を逃れた。高知城と違って外堀から城

までほぼ平坦な道のりで、ゆったりとした印象を受けた。城の内部は6階建てとなっており高知城と同じ階数であるが、最上階は高知城に比べるとずいぶんと広い。また天守に付属する月見櫓が唯一残っている城でもある。



国宝・松本城

旧開智学校は明治時代初期の擬洋風建築の校舎であり、天使や龍のデザインが奇妙だった。ちょうど修繕中であつたため、外観は正面部分しか見ることが出来なかったが、正面の天使の顔がなんとも味のある仕上がりだった。内部では当時の机や教科書などが展示され、中でも印象的だったのは戦時中に描かれたであろうこどもたちの絵である。こどもがこんな絵を描いていたなんて…信じられない。



かわいらしいレトロな机

6. 特産品

今回訪れた先々で様々な特産品を食べることができた。富山では「かに」の釜飯をはじめ、「ホタルイカ」や「白えび」をいただいた。松本市では意外にも「馬肉」が有名らし

く、熊本以来の「馬刺し」や「山賊焼」を堪能し、大量のお土産を買込んだ。最近はずっかりご無沙汰であるが、数年前までは長野に毎年スキーに訪れていたため、なじみのあるお土産ものが多かった。松本市のある長野県といえば「信州りんご」「信州味噌」「信州そば」「わさび」「野沢菜」などがあげられる。またりんごで育った牛というキャッチフレーズの「信州牛」というブランド牛もあるらしい。半分空いていたスーツケースにはお土産がぎっしりと詰め込まれた。また、最終日に訪れた「石井味噌」でのお昼ご飯は味噌づくしで非常に美味しく、特に豚汁と味噌アイスが気に入った。



「石井味噌」の味噌づくし定食!満腹!!

7. おわりに

友達同士や家族とはまた違った楽しさがあり、毎年楽しみにしているイベントである。社員の新たな一面を知り交流する機会を持つことで、よりいっそう今後の仕事が楽しくなりそうだ。また、このような機会をくださった皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



黒部・立山アルペンルート社員旅行

設計部 河川砂防課 公文海斗

1. はじめに

5月25日から5月27日まで2泊3日の日程で社員旅行に参加した。今年の目的地は黒部・立山アルペンルートであった。今回の、旅行を有意義なものにするために、体調管理、ケガに気をつけて望んだ。

2. 福井県立恐竜博物館

初日は、福井県立恐竜博物館を見学した。何体もの恐竜の化石や、動く恐竜を目前にし、私は小さい子供になった気分になった。私が仕事で利用するスタッフを持った人を発見し、目が止まった。

初日はたくさんの恐竜に囲まれ夢中になり楽しい時間を過ごせた。

大人も夢中になれる最高の観光スポットとして、家庭を持った際は再び訪れたいと感じた。



写真 2-1 動く恐竜



写真 2-2 スタッフが利用されていた

3. 宇奈月温泉・夜の宴会

一日目の締めくくりは、宇奈月温泉での宴会だ。露天風呂に浸りながら自然を堪能するとともに気持ちの良いお湯や風を浴びることで、疲れが吹っ飛んだ。

宴会では、美味しいご飯とお酒を口にし、みんなと色々な話をした。気分が乗った所でカラオケを歌い、宴会の場は盛大に盛り上がった。



写真 3-1 宴会の食事

4. 黒部ダム

バス、トンネルトロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーとたくさんの乗り物を利用して日本最大級の水力発電ダムである黒部ダムへ向かった。この大自然の中になだらかに美しいアーチを描く黒部ダムの迫力感には感動の一言だった。黒部ダムは、春夏秋冬を通して行ってみたいと思える最高の場所であった。



写真 4-1 黒部ダム

5. 代官山にて夜ご飯

二日目の夕食は自由食ということで、代官山にて高級ステーキを食べた。値段を目にした時は驚きを隠せなかったが高価なだけに味は文句なしであった。夜景も堪能でき、良い夕食となった。



写真 5-1 代官山にてステーキ

6. 松本城

長野県松本市にある、日本最古の国宝の城と言われる松本城は五重の天守である。五重の天守の実物が見れるのは姫路城との2城だけだそう。建物の中の階段は非常に急勾配で、若い私にも上がるのに苦労した。



写真 6-1 松本城

7. 終わりに

今年で二回目の社員旅行を終え、充実した三日間だった。このような楽しい旅行を計画していただいた親睦会の方、日本旅行の井上さんに感謝します。



写真 7-1 第二班集合写真(黒部ダムにて)

社員旅行 レポート

設計部河川砂防課 高橋 昌也

1 はじめに

社員旅行は私にとって初めてのことであり、出発までは初めて見る光景に対する楽しさと、先輩や上司の方々と5月25日から3日間過ごすことに対する少々の緊張や不安を持ちながら過ごしていました。

高知に帰って思うと、この3日間ほどの場面を取っても楽しく過ごすことができ、不安などのマイナスの感情は杞憂に過ぎなかったと感じています。

2 旅行レポート

2-1 旅行1日目

1日目は朝から飛行機やバスでの移動が多く、それに伴う疲れもありましたが、途中の鯖江市にある釜蔵での釜飯がとても美味しく、昼からいただくのは少々勿体ないと思いました。



1日目昼食の釜飯

次に訪れた恐竜博物館では様々な恐竜の模型や化石をみることができました。私自身、恐竜はあまり詳しくなく、ティラノサウルスくらいしか名前がわからない程度の知識でしたが、いろいろな種類の恐竜やその当時の環境や生態系など知識を少しでも深めることのできる貴重な機会でした。



恐竜博物館の様子

夕方、宇奈月温泉の延対寺荘に到着すると私は既に疲れており、「すぐにでも温泉に入って寝たい」という気持ちも若干ありましたが、宴会場で夕食をいただきました。宴会では、美味しいご飯もさることながら、普段あまり話すことのない他の課や部署の上司の方々と、お酒の力も借りながら楽しく話すことができ、たくさん得るものがあったと思います。

二次会に関しても疲れと酔いのせいで、あまり乗り気ではなかったですが、宴会であまり話せなかった方もお酒を交えながら話すことができ、今思うと参加してよかったと思います。

2-2 旅行 2 日目

2 日目はこの旅行のメインイベントである立山黒部アルペンルートの観光をしました。立山のふもとから室堂へとロープウェイと高原バスを使って登っていく途中、5 月にも関わらず雪の残る光景にはちょっとした違和感がありました。

雪の大谷では 10m を超える雪の壁が両側にそびえており、そのスケールに圧倒されました。

室堂で昼食をとった後の自由時間の散策では、レストランのある建物の屋上から登山道に通じる道があったため、少しだけ山の中に進みました。

私はこのとき風邪で喉の調子が悪かったこともあり、酸素が薄い中、雪山を歩くことには少々しんどいと感じ、時には咳込むこともありました。しかし、そこには氷に覆われた湖や、雪の中に佇む雷鳥など、普段見ることのできない貴重な光景を見ることができ、すごく有意義な時間を過ごすことができました。



雪の中に佇む雷鳥



氷に覆われた湖

その後、ロープウェイを使って黒部ダム付近まで降りて、黒部ダムを見学しました。ダムの堤高日本一と言われるだけあって間近で見るその大きさは想像を絶するものでした。黒部ダムの画像はテレビやインターネットなどでたまに見かけることはありますが、実物を見ないと分からない何とも言えないダイナミックさがそこから伝わってきました。

訪れた時期が 5 月ということで、放水をみることはできませんでしたが、これはまた機会があれば個人的に見に行きたいと思いました。

また、このダムが今から 60 年以上も前に建設され、その工事は過酷を極めたと伺い、この事業に携わった当時の土木技術者や作業員の方々には敬意を払わなければならないと痛感しました。



黒部ダムの様子

5月であり観光放水は行われていない

2-3 旅行3日目

最終日の朝は松本市にある松本城と旧開智小学校の観光をしました。

私は、城巡りに興味がありこの旅行で松本城を訪れることができよかったですこの日は天気にも恵まれ、青空を背景にお堀に映る松本城の様子が個人的には気に入りました。

旧開智小学校は名前すら知らなかったのですが、明治維新の頃の歴史の知識を一つ増やす良い機会にすることができたと思います。



松本城の様子

この旅行の最後に訪れた場所は石井味噌の工場でした。今でも昔ながらの製法で味噌を製造しており、ここで振る舞われた昼食は絶品でした。ここで、自分の土産として味噌と味噌ソースを買ったので、それらを使った料理にもチャレンジしたいかと思っています



石井味噌での昼食

3 おわりに

旅行を振り返ると楽しく得るものも大変多い3日間でした。出発当初懸念されていた天候もさほど気にせず旅行できたことも、非常に運が良かったと思います。今は大きなアクシデントもなく無事に高知に戻ることができ、ほっとしています。

最後になりますが、新入社員である私にこのような機会を与えていただきました当社の全ての方々に感謝をいたします。

ありがとうございました。

社員旅行（2班）レポート

～立山黒部アルペンルートの旅～

防災まちづくり課 北村暢章

1. はじめに

平成29年度社員旅行の第2班として、5月25日（木）～5月27日（土）の2泊3日立山黒部アルペンルートへ参加した。25日の朝7時に高知龍馬空港に集合し、27日の夕方18時に高知龍馬空港で解散する工程で、主な行先は、1日目に福井県立恐竜博物館、2日目に立山アルペンルート、3日目に松本城と旧開智学校であった。

2. 恐竜博物館

1日目の観光は、福井県の勝山市にある福井県立恐竜博物館であった。福井県には、鯖江市というメガネの生産量が日本一の都市がある。

恐竜博物館では、メガネをかけた恐竜のユニークな銅像が出迎えてくれた。

私も、長年のメガネ愛用者であり、帰って調べてみると、鯖江市には「めがねミュージアム」があり、めがねづくりを、手軽に楽しめる教室や体験コーナーがあるそうで、機会があればめがね職人の仕事や話を聞きに行ってみたいと思う。

福井県立恐竜博物館は、世界三大恐竜博物館の一つであり、世界的に貴重な博物館である。博物館の近くでは、恐竜に加えてワニや亀といった多様な化石が発掘されている。これは、勝山市が中生代に水辺であったことから、恐竜や爬虫類が生息していたことによる。

恐竜の化石発掘は、土を掘り起こして行うものであり、私が専門とする地質工学にも関連が深く、興味深く見学ができた。



写真1 メガネをかけた恐竜博士



写真2 アーケロン イスキロス

3. 立山アルペンルート

2日目は、立山アルペンルート観光であった。ケーブルカーやバスを乗り継いで黒部ダムへと向かった。

黒部ダムでは、天候にも恵まれダム湖を見ることができた。放水が見られなかったのが残念であったが、雄大な黒部ダムを見ると、土木技術者の一人として、いつか自分も、黒部ダムのような歴史や地図に残る、大規模構造物の建設に携われる技術者になりたいと思った。

移動中、トロリーバスに乗り掘削が困難であった破碎帯を通った。この時、昨年、大豊町怒田地区の地すべり指定地でボーリング調査を行ったときにすべり面付近に破碎帯が現れていたことを思い出した。

破碎帯は、岩盤が割り砕かれて、多くの隙間を持つようになった地層のことである。断層の運動

などによって発生する。

破碎帯は通常の地盤に比べて軟弱であり、地下水などが含まれている場合も多い。トンネル工事などでは岩盤の脆い危険地帯となり、地震発生の際には活断層と共に大きく動く危険性もある。

黒部ダムの関連トンネル工事では、破碎帯からの地下水が原因でたくさんの命が失われたと聞いた。土木技術者および技能者等の尊い命が犠牲となり黒部ダムが完成した事を知り、世のため人のため命がけで工事に携わった関係者を思うと感慨深いものがあった。



写真3 黒部ダム

4. 松本市観光

3日目は、松本城と旧開智学校の観光を行い帰路についた。松本城は、戦国時代に築城されたため深度6強～深度7の大地震が起きた場合には、倒壊や変形の危険性があることが明らかとなっている。国宝に指定されており日本文化を残すためには、耐震対策等が必要であると思う。

橋梁や水門等の土木構造物においても耐震化が進んでいる。国宝に指定された建築物の耐震化は、景観や材質に配慮が必要であり、設計や関係機関との合意形成に多大な時間を要することが想定される。文化財等の耐震化は一般的な土木構造物の耐震化より設計が難しいと感じた。



写真4 国宝 松本城

5. おわりに

今回の社員旅行では、バスの移動時間が非常に長く、車内で寝ていることが多かった。どこでも寝られる体質で良かったと思った。

1日目の昼食では、カニ釜飯をいただいた。長時間のバス移動もあいまって非常に美味しい昼食となった。

恐竜博物館のあった勝山市は、去年訪れていたが時間がなく博物館へ行くことができていなかった。今回の旅行では観光でき感動した。

黒部ダムには、名産品のワサビを使ったコロッケがあった。お酒が欲しくなる一品であった。

長野県の夜は、A5ランクの信州牛のステーキをいただいた。あいにくの雨で夜景は見られなかったが、普段食べることのできない牛肉には、とても感動した。

旅行を通じて普段体験できないような貴重な時間を過ごすことができた。ありがとうございました。



写真5 釜蔵 (1日目 昼食)



写真6 ワサビコロッケ



写真7 信州牛のステーキ

立山黒部アルペンルートの旅

防災まちづくり課 有澤芳則



はじめに

黒部ダムは、日本最大のアーチダム（アーチ式コンクリートダム）である。映画『黒部の太陽』の舞台として知られ、現在は国内外問わず、年間100万人もの観光客が訪れる観光名所である。今年の社員旅行は、黒部ダムをメインに、恐竜博物館（福井県）、松本城（長野県）等を巡る日程であった。

恐竜博物館（1日目）

北陸一帯には手取層群と呼ばれる地層がある。この地層から恐竜化石や中生代植物化石等が発見された。この発見は、日本を含めた周辺諸国の地質学や古生物学研究が発展するきっかけとなったといわれている。1982年から現在も産出している貴重な恐竜資源を学術研究、地域振興等に活用するため、恐竜博物館が建設された。

恐竜博物館地下1階展示に、勝山市北谷町における恐竜化石発掘の現場風景を展示している。作業員の服装や使用機材は、我々が普段着ている作業服や機材と大差なかった。普段目にする機会がない、発掘現場の作業状況について知ることができた。



化石調査風景

黒部ダム（2日目）

黒部ダムは標高1,433mに建設されている。資機材を運搬する方法は、ヘリコプターか徒歩しかない。現在の立山駅方面から出発し、立山（標高3,015m）を越え建設予定地へ運ぶ工程は、過酷な作業だったと思う。ケーブルカーやバス等を利用し黒部ダムへ向かう観光ルートでも、高低差で息切れしそうになった。

アーチダムは左右岸と底部の岩盤で水圧を支える構造で設計されている。そのため、強度の高い地盤や峡谷地形に適する。黒部ダムの両端は、峡谷ではなくウィングダムという構造物で支えている。1959年にフランスのマルパッセダムが決壊した。マルパッセダムと同様に設計された黒部ダムは、建設途中で再度調査を行い、ウィングダムを持ったアーチダム形式に設計が変更されている。

黒部ダムは、数々の苦難に対し真摯に対応する土木技術者の情熱や、苦勞の賜であることを知ることができた。



黒部ダム

松本城（3日目）

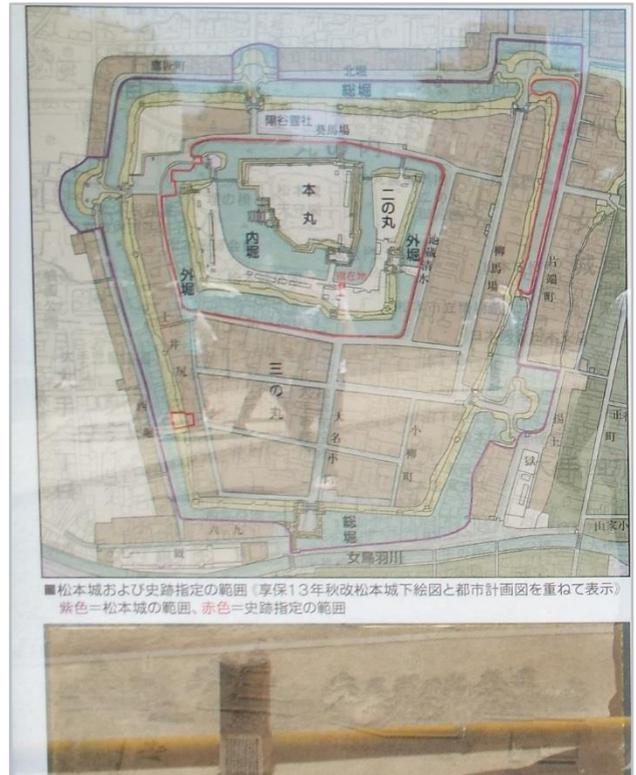
松本城は三重の水堀に囲まれた城であった。しかし、城郭破却という新政府の意向を受け、多くの城郭が破壊された。土塁、石垣、門、塀、櫓等の一部は再利用され新しく建築される建物に使われている。その他の遺構は堀の埋め立てに利用され、平成24年の発掘調査で発見されている。

旧物破壊の風潮があった明治維新以降も松本城が現存できたのは、松本市民が松本城を保存するために立ち上がったからである。現在も市民による松本城周辺の清掃等や、城を愛護保全する活動が続けられている。

松本城のような歴史的建造物であっても、天災や時代の流れ中で何度も破壊の危機に瀕している。今後も適切に維持管理していくことは、大変な作業であり、地域住民の協力が不可欠だと感じた。



松本城



享保13年秋改松本城下絵図と都市計画図の重ね図

おわりに

今回の社員旅行は、日常の業務では関わりがない他の課の先輩方や新入社員等と交流を深めることができた。仕事に対する心構えや姿勢等のアドバイスを頂き、今後の業務への糧にすることができた。

天候の悪い中、ほんの一時だけ晴れた中で見えたみくりが池の水面は、紺碧に輝いておりとても綺麗であった。



みくりが池

2017年 社員旅行レポート

設計部 防災まちづくり課 安地勝江

1. はじめに

5月25日(木)～27日(土)まで、第2班として社員旅行に参加しました。各地の観光はもちろんですが、様々な知識を得られた3日間でした。

2. 1日目(福井県立恐竜博物館)

昼食を終え、最初の目的地である福井県立恐竜博物館に向かいました。恐竜の全身骨格だけでなく、当時の地質の変化や生物の進化、化石の採掘の様子などの展示もありました。



恐竜の細やかな動きも再現されていた

見学後は宿泊先の旅館、延対寺荘へ向かいました。夕食前に町を散策していると、町並みの中に、老朽化し壁にヒビが入っている旅館の社員寮や空きアパートなどが点在していることに気がつきました。H17年には約44万人だった宇奈月温泉の入込客数も、H27年には約37万人にまで減少しています。観光客の減少に伴いサービス業に携わる人が流出し、使用されない建物ができたのではないかと思います。そのような中でも、観光案内所は古い建物を改装した様子が伺え、観光地の老朽化した建物の活用について考えさせられました。

3. 2日目(立山・黒部アルペンルート)

今回の旅行のメインでもあった、立山・黒部アルペンルート。ホテル立山に到着しバスを降りると、5月とは思えないほどの気温の低さに驚きました。

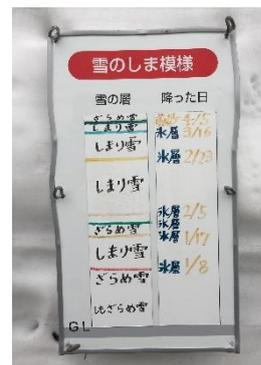
3-1. 雪の大壁

あいにく頂上付近は霧がかかっていたが、道沿いにそびえ立つ雪の壁は圧巻でした。この壁を作るための除雪作業には約3ヶ月を要するというで自然の厳しさを感じました。



雪の大壁

雪の重さは、しまり雪の場合1立法メートル当たり500kgで、地表付近の雪は8トンもあるそうです。壁の途中に雪のしま模様の解説があり、時間をかけて壁が作られた様子が分かります。



雪のしま模様を示した看板

雪の壁は氷のように硬く押し固められているため途中から崩れ落ちることはなく、夏が近づくと表面から少しずつ溶けていくということでした。

3-2. 黒部ダム

昭和 38 年竣工の黒部ダムは、日本最大級のアーチ型の水力発電ダムで、戦後日本において関西の電力不足を解消するために建設されました。えん堤からは点検の際に歩くという歩道も見え、考えただけでも足がすくみます。



展望台の頂上からの景色

降水量が多く、急峻な河川である黒部川は水力発電に有利な条件を備えていました。しかし同時に、高い山々に挟まれた厳しい地形でもあります。当時は資機材を輸送する手段が、雪の立山越えなどの人力やへりに限られていたということも今回初めて知りました。

大型資機材を輸送するために開通された関電トンネルの中を走るトロリーバスのチケットは、「破碎帯突破 60 周年」の記念仕様でした。破碎帯のあった場所を青いランプで示している区間がありましたが、あっという間に通り過ぎてしまいました。この 80m の区間の掘削に 7 ヶ月を要したということからも、いかに大変な工事であったのかが伺えます。

この黒部ダムの建築に関わった人は延べ 1,000 万人もおり、建設途中には 171 名の犠牲者も出ています。約 50 年前にこのような大規模な工事が行われたことに驚くとともに、今も人々の生活を支える重要な施設となっていることに感銘を受けました。

観光地としても有名な黒部ダムですが、今回の旅行はその建設の背景などについて改めて考える良い機会となりました。



展望台で記念撮影

4. 3日目（松本城～開智学校）

最終日は日本の国宝にも指定されている松本城、明治初期に建設された開智学校を訪れました。特に印象に残っているのは松本城の月見櫓です。急な階段や低い天井の場内とは一変し、開放的な雰囲気でした。この月見櫓があるのは、現存する城郭建築の中で岡山城と松本城のみとなっています。



松本城から見た街並み

5. おわりに

4 月に入社してから、様々な視点から物事を見ることの大切さを感じています。今回の旅行でも、他の社員の皆さんと一緒に各地を回る中で自分にはなかった視点のお話も聞け、勉強になることがたくさんありました。観光を楽しむとともに、今後の業務にも生かせることを学んだ貴重な機会でした。ありがとうございました。

立山黒部アルペンルート

道路交通課 西村 紘寛

1. はじめに

社員旅行は今年度で5年連続の開催となる。私は旅行の親睦会役員として旅行スケジュール等の調整役を行っていたが、今年は立山アルペンルートを中心に旅行となり、例年と比べ華やかさに欠けるメニューであったため、参加者の減少、開催の危機が懸念された。しかし、例年と同等の参加希望があったため旅行前に一息ついたことを思い出す。

2. スケジュール

5/25 高知→富山

道中、鯖江市で昼食、勝山市で恐竜博物館の見学、宿泊は黒部市の延対寺荘

5/26 富山→長野

黒部市立山から5回の乗り継ぎを行い扇沢へ。途中室堂で昼食と観光、黒部ダムでも観光。宿泊は松本市のビジネスホテル

5/27 長野→高知

午前中に松本市内観光（松本城、旧開智学校）、信州石井味噌倉にて昼食。

3. 研修報告

研修報告として、行程において最も印象に残る立山黒部アルペンルート、特に黒部ダムについて記載する。

土木技術者ならず日本人なら誰もが知っているであろう黒部ダムを本旅行で初めて訪れた。おそらく生涯で行くことがないと感じていた黒部ダムに行けることが、旅行の参加を決めた一番の理由だった。

①黒部ダムまでの移動

黒部ダムへは、立山駅を出発しケーブルカーやバス、ロープウェイを4回乗り継ぎし、約6時間かけてやっと到着できる、まさに秘境の地であった。

道中では雪の大谷として全国的に有名な室堂で昼食と周辺の散策を行った。



②黒部ダム概要

黒部ダムはダムの高さが186mと日本一を誇るアーチ式コンクリートダムである。四国内にある最大高さを誇る早明浦ダムでさえ106mであるため、スケールの違いが一目瞭然である。なお、総貯水量は早明浦ダムが黒部ダムより1.5倍ほど多い。



③感想

ダムはアーチ構造となっているため、背面水圧の作用により部材（壁体）に圧縮力を発生させて構造的に成り立っている。

四国でもよく問題となるが、降雨量が年間を通して少なく水位が低くなった際に構造的に問題が生じないかふと気になったが、規模が大きすぎて頭の中で大丈夫だろうと自己解決して終わった。

※ダムの放水期（6月下旬より）になると以下のような迫力ある風景が堪能できるらしい。



黒部ダムオフィシャルサイトより

4. おわりに

今年の社員旅行も去年に引き続き班長を任命されていた。去年は海外旅行でありトラブルが続いたため、今年は班長として全員無事に予定通りの帰高を一番の目標としていた。班員の協力と旅行代理店の添乗員による適切な指揮によりハードスケジュールを無事乗り切ることができ感謝している。

5. 研修付録

①北陸自動車道のルート

本旅行の往路の高速道路にて珍しいルートを走行することができた。下図に示す 30 km 区間(敦賀 IC 過ぎ～福井-石川県境)では、高速道路の上下線が左右逆のルートとなっている。バスガイドさんの情報では、当地区は温泉地であり温泉源となりうる箇所(すなわち地下水が豊富な箇所?)を回避するためにやむを得ず選定された結果のルートであると説明を受けた。



図-上下線が逆転する区間

Yahoo 地図より

このことが気になり、帰高後にインターネットで情報収集することにした。ネット上では、本区間は県境の山越えルートとなり、道路縦断勾配が急となる区間である。これによって自動車排気ガスの排出量が多くなることを回避することを目的として、上下線を分離し、ともに縦断勾配を緩やかにすることに努めた結果であるという記事を発見した。

道路設計を行う立場の人間として、当区間のような極端な上下線の分離を行う発想は持っていなかったため、今後の設計に役立てると感じた。

②リアルタイムな道路標識

現在、東京オリンピックに向けた国策の一つとして道路標識における路線名のナンバリング化が進められている。ナンバリング化とは、来日外国人に路線案内を記号と番号で簡略的に示すことが目的となっている。

ナンバリングの対象となるのは高規格幹線道路であり、昨年度から四国地方整備局や NEXCO 西日本でも設置方法やデザインについて議論を始めたところである。私も道路標識のナンバリングについては業務で携わる機会があり、高速道路の移動中に車窓よりすれ違う標識を注視していた。

初日の恐竜博物館へ向かう途中で、ナンバリングの表記が行われている道路標識に出会うことができた。場所は、福井北 IC から東向けに整備が進められている中部縦貫自動車道であり、供用して間もない路線であった。

全国的にも設置された事例が少なく、国交省の担当からも情報がほしいとの問い合わせを何度か頂いたことがあった。

本旅行にてナンバリング化された標識に出会い、最新の情報を取り入れることができたため、今後の業務の参考として役立てたい。



つまらないバス移動でも目的を持っていると楽しいものだ。

北信越研修旅行

道路交通課 小松 由和

はじめに

北信越地方に2泊3日の日程で行くことになりました。近そうで遠い、一度も訪れたことのない場所。

旅行の準備はいつだって、出発直前の日曜日。晴れると暑いかなとか、雪の残る山頂はととても寒そうとか、あれこれ考える。キャリアバッグのちょうど半分にだけ荷物を詰めて、準備完了。

天気予報を確認すると、曇りと雨のマークが並んでいる。雨、降りませんように。

1日目

高知は朝から雨。目的地に着く頃には晴れるだろう、と気持ちを切り替え家を出る。

高知龍馬空港から大阪の伊丹空港まで、約45分のフライト。普段、朝起きてから家を出るまでの時間は大体これくらいだから、やっぱり飛行機はすごい。バチバチと空気を切りながら加速し、機体がふわりと離陸した瞬間、ああ、旅行が始まったんだな、と全身で感じた。伊丹空港に到着後、預けていた荷物を受け取る。外は、相変わらずの雨模様。

早速バスに乗り込み、福井県勝山市の福井県立恐竜博物館に向けて出発。途中で昼食をとり、14時30分頃に到着しました。かなり北上したおかげか、すっかり天気はよくなって、少し暑いくらい。



館内には、福井県内で発掘された化石や珍しい岩石・鉱石が多数展示されていて、太古の地球の姿を垣間見ることができました。また、体験学習として化石の発掘体験ができるらしく、時間があるときにまた訪れたいなと思いました、



博物館を後にした一行は、本日の宿泊先である宇奈月温泉街に向けて出発。ガイドの杉下さんによる軽快なトークにより長時間の移動も苦になりませんでした。

宿に到着して早々、宴会がスタート。おいしい料理でお酒が進み、あっという間にお開きに。2次会を挟んで、今日はおやすみ。

2日目

ちょっと飲み過ぎたかなと思いながら、意外とすっきり目が覚めました。

今日の目的地は、立山黒部アルペンルートと黒部ダム。テレビや写真でしか見たことがなかった景色を、やっと自分の目で見られるということで、テンションが上がります。

雪の大谷では、道路の両側にそびえ立つ15mに迫る雪壁と、白い景色がどこまでも続きます。雪の間の黒い層は、黄砂や細かなチリなどで、一日にどれほどの雪が降ったのかがわかるようになっていました。



昭和 31 年に着工し、途中で幾多の難所につかりながらも 7 年の歳月をかけて造られた、日本一のダム。そのスケールの大きさに圧倒されると同時に、少し感動しました。

黒部ダム周辺の移動手段と言えば、坑内を走るトロリーバスを始め、ケーブルカーやロープウェイなど、普段の生活ではなかなか目にすることがない乗り物に乗れたことも、よい体験になりました。しかし、黒部湖駅の看板の横に赤べこを並べて写真を撮ることを忘れてしまい、非常に後悔しています。



今晚は長野県松本市で宿泊。おいしいご飯を食べて、遊んで、非常に楽しい一日になりました。

3 日目

今日は朝から非常に天気が良く、旅行最終日にはうってつけの日和になりました。

まず向かったのは、国宝の松本城。天守が国宝に指定されている城、5 つのうちの一つです。他の城と比べるとさほど大きくはないそうですが、やはり国宝なだけはあって、その存在感はすさまじいものでした。

次に向かったのは旧開智学校。明治時代に開校した学校（建物）が現在、重要文化財に指定されています。約 90 年ものあいだ生徒を見守ってきた学び舎は、今はただ時が経つのを楽しむかのように、静かにたたずんでいます。

松本市内では毎年、クラフトフェアなるものが開催されているそうです。松本城にほど近いあがたの森公園では手作りの雑貨や家具などが売られており、来年はぜひ行ってみたいなと思いました。

お昼ご飯は、近くにある味噌蔵で味噌料理を堪能。具だくさんの豚汁と焼きおにぎり、田楽にお焼きと、味噌づくしの献立でした。

おなかいっぱいになったところで、あとは高知に帰るだけ。伊丹空港までバスで向かい、18 時前の飛行機で高知に飛び立ちました。たくさんのお土産と、たくさんのお土産を、キャリーバッグの半分に詰めて。

おわりに

自分の背丈よりも高い雪の壁を初めて見た。早明浦ダムよりも大きなダムを初めて見た。化石燃料以外で走るバスに初めて乗った。高知城以外の天守に初めてのぼった。昨日まで知らなかったことを、今日知った。

限りある時間の中で、まだまだ知らないことや、知りたいことがたくさんあります。いろんなところに行ってみたいし、いろんなものを食べてみたい。あんなことやこんなこともしてみたい。

今回の旅行は初めて体験することが盛りだくさんで、非常に充実した 3 日間でした。旅先で得た楽しい思い出を、いつまでも忘れませんように。



立山黒部

アルペンルートの旅

道路交通課 中平 隆文

1.はじめに

5/25～27 まで社員旅行の第2班の一員として立山黒部アルペンルートの旅へ行った。

今回の旅行は、乗り物はもちろん徒歩での移動距離が長く、かなり大変な旅行であったが、北陸のおいしい食べ物や壮大な景色に心が癒され、溜まっていたストレスを一気に解消することができた。また、普段関わることの少ない調査部の方々と親睦を深めることができ、充実した3日間を過ごすことができた。

2.恐竜博物館

最初に私たちが訪れたのは、福井県にある恐竜博物館。ここにはテレビなどによく出てくるような恐竜や、あまり見たことのない恐竜など、様々な恐竜の化石が展示されていた。

平日の昼間であったが、多くの方が訪れていた。



恐竜の化石

3.宇奈月温泉

1日目の宿泊先は、宇奈月温泉にある延対寺荘である。旅館に着くとすぐに露天風呂へ行った。露天風呂は想像していたより少し小さかったが、川の流れる音を聞きながらの入浴は心身共に癒やすことができた。



延対寺荘から見た黒部川

入浴後は、参加者全員での宴会。第2班の参加者は、第1班に比べ年齢層が若く、日頃から良くしていただいている方たちが多くいたため、気を遣うことなく楽しい時間を過ごすことができた。

4.室堂高原

2日目最初に訪れたのは、室堂高原。標高は、なんと2,450m。5月後半だというのに、あたりは雪に覆われとても寒い。

普段雪を見ることの少ない私は、そのすごさに本当に圧倒された。

5. 黒部ダム

次に訪れたのは、土木技術者なら一度は行ってみたい黒部ダム。

現在は、まだ放水する時期ではないため、ダムから勢いよく放水する姿を見ることができず残念であったが、日本一高いダムから見た眺めはとても壮大で、このような大きく、高い構造物をつくることのできる日本の土木技術のすごさを再認識することができた。



黒部ダムからみた景色

6. 松本での夜

2日目の夕食は、松本駅から3kmほど離れた住宅街にある『代官山』という店で信州牛のステーキを食べることにした。中に入るとガラス張りで見事な夜景が見えており、デート中のカップルが数組いる。男7人で訪れた私たちは、とても場違いな感じで少し恥ずかしかった。

奥の席に案内され注文を済ませると、厨房から香ばしいにおいと、肉の焼ける音が聞こえ、よだれが止まらなかった。

10分ほど雑談をしていると待ちに待ったA5ランクの信州牛が運ばれてきた。初めて食べるA5ランクのステーキを目にし、気分

が高揚した。実際に食べてみると口の中ですぐ溶けていき、今まで食べたどのステーキよりおいしい。「ほっぺが落ちそうなくらいおいしい」とはまさにこのことだなと思った。

一通り食べ終えた私たちは、勘定を済ませ松本駅へ戻った。時刻は21時30分。普段なら2次会、3次会へと行く私たちだが、一日中立ちっぱなしの黒部ダム観光で疲れ切っていたため、ホテルへ帰り寝ることにした。



2日目の夕食

7. 松本観光

最終日の最初に訪れたのは、天守が国宝に指定されている松本城。この城は、1504年に軍事用施設として建てられた城であり、階段がかなり急な作りとなっている。日頃からスポーツをすることが趣味な私でもかなり疲れる見学となった。

次に訪れたのは、旧開智学校。しかし、私たちが訪れる2日前から補修工事が始まっており、本来の姿を見ることができず残念であった。

最後は、信州石井味噌へ行き、味噌が出来るまでの工程見学と昼食を食べた。石井味噌は、今では珍しい天然醸造で3年間熟成され

た味噌である。味に深みがありとてもおいしくすぐに完食してしまった。



味噌をふんだんに使った料理

8. おわりに

出発前は、あまり良いイメージのないこの旅行に気がすすまず、乗り気ではないままこの旅行に参加したが、実際に行ってみると、高知とは全く違う北陸の文化や食べ物、自然に触れることができ、かなりリフレッシュすることができた。

最後この旅行へ連れて行っていただいた会社、計画・実行していただいた親睦会の皆様、日本旅行の井上様、その他多くの関係者の皆様に感謝したい。



社員旅行

道路交通課 小笠原明弘

はじめに

今回の社員旅行は新社会人の私にとっては初めてのものとなる。

同じ課の先輩以外の方とは交流する機会がないため、「他課の先輩社員との交流」を大きなテーマとして高知龍馬空港へ向かった。

釜飯専門店 釜蔵

旅行で初めて口にした食事はこのカニ釜飯である。バスガイドさんがカニの旬は終わってしまったという話をされていたが、十分おいしかった。旬の時期となるとどこまで美味しくなってしまうのだろうか。是非とも食べてみたいものである。

昼食からビールを美味しそうに飲む先輩方の姿を見て、「これが社員旅行か」と驚いた。



恐竜博物館

昼食の後は恐竜博物館に行った。

ここではすべてを忘れて童心に戻るこ

ができた。幼い頃に図鑑で見た恐竜骨格が目の前に立体として展示されているのを見て太古の生物の巨大さにただただ驚いた。

ここでは化石の復旧清掃作業という珍しい光景をみることもできた。ガラス越しに見つめる私など一切目に入っていない様子で、とてつもない集中力だと感じた。



宇奈月温泉

温泉での思いではなんといっても宴会である。この宴会を通して他課の先輩と色々な会話することができ、二日目、三日目をより楽しく過ごすことができた。

料理は富山県名物等がふんだんに使用されており、特に白エビの炊き込みご飯は経験したことのないおいしさであった。



立山黒部アルペンルート

2日目の立山黒部アルペンルートでは、6月に入ろうかというのに残り続けている雪の絶景や、トロリーバスや黒部ダムなど人が作り出した巨大な構造物などを見ることができた。大自然の魅力に加え土木技術の

魅力も味わうことができ、感動の連続であった。

また幸運にも雷鳥を見ることができた。トコトコと歩き去って行く姿は可愛らしかった。



松本城

旅行最終日は松本城見学からはじまった。

松本城の天守は素晴らしもので、上りにくい階段や狭い廊下など、天守に向かうにつれて要塞としての優秀さを体感することができた。天守から見る堀や庭園は良いもので、ただの要塞にとどまらないところに昔の設計者のこだわりを感じることができた。

また、ここでは小笠原家の家紋を見ることができた。私の家系とはルーツが異なるが、不思議と親近感を覚えた。



石井味噌

旅行の最後に立ち寄ったのは石井味噌。

ここでは初めて味噌樽を見ることができた。

昼食は味噌中心の味付けとなっており、味噌文化が強くない地方で育ってきた私にとっては新しい出会いとなった。料理好きの私が買ったお土産は当然本場の味噌。今後のレパトリーの展開に期待が膨らむ。



おわりに

入社したての新人にもかかわらずこのような楽しい機会を与えてくださったこと感謝いたします。

次の機会はさらに楽しめるように多くの先輩方と親睦をさらに深めていきたいと思っております。

富山と長野を旅して

橋梁構造課 大和田 菊代

1. はじめに

今回の旅は、初日を富山県の温泉旅館に泊まり、翌日は長野県の松山市に宿泊する行程である。本レポートは、2県を繋ぐ立山黒部アルペンルートと特産品に注目しようと思う。

2. 黒部ダムと立山黒部アルペンルート

立山黒部アルペンルートは富山県の立山駅から長野県の扇沢駅までを結ぶ山岳観光ルートである。二駅間の直線距離は25kmほどだが、道中はうねった高原道やケーブルカーの最大29度にもなる急勾配などにより実質37.4kmほどになる。

立山駅を9:30に出発し、扇沢駅到着は16:00であった。高原バス以外の乗り物はそれほど長い乗車時間ではなかったが、平地では乗り慣れないケーブルカーとロープウェイ、黒部ダム建設の資材運搬用に作られたトンネル内を走行する架線式トロリーバスなどに乗り継ぐ事ができ、それぞれに景観も見所がある。道中には昼食や観光も盛り込み充実した行程であった。

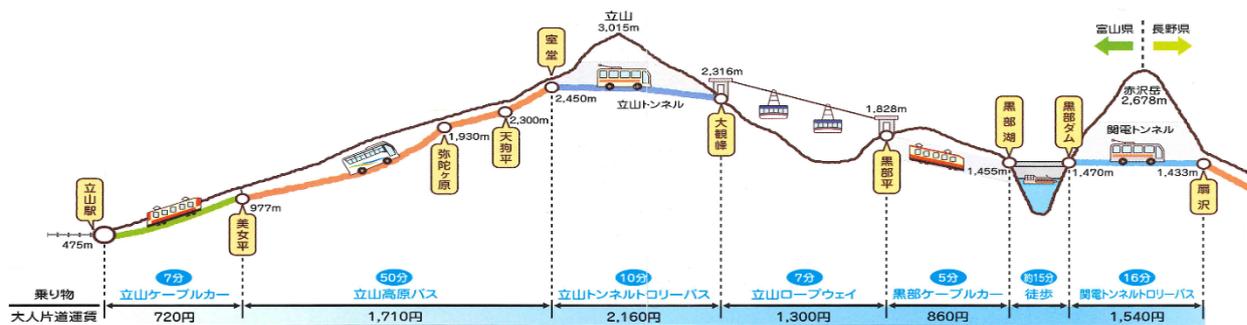


ケーブルカー乗り場

室堂は標高2450mに位置し、5月末にもかかわらず一面が雪に覆われていた。道路の部分を除雪して作られた雪の大谷は今年の最大積雪高が19mであり、未だ14mの高さの雪の壁が残っている。どんどん溶けているので表面は氷のようかと思っただが、ザクザクとかき氷のように彫ることができた。以前訪れたのは夏季だったため写真でしか見ていなかった雪の壁を見ることができ感動した。

なお、夏季に訪れた折は今回とは逆に黒部ダムの観光放水を見ることができ、その迫力を覚えている。当時は休日だからかケーブルカー乗車に2時間半待たせられたらしい。現在はチケットのネット予約や混雑状況を事前に確認が出来るため便利になったものだと思う。

室堂ではあいにくの霧で覆われ、時折小雨が降っていたのだが、トロリーバスで立山を縦断するトンネルを抜けるとそこは晴天であり、大観峰駅の展望台からはこの後乗車する



立山黒部アルペンルート路線図 (パンフレット「黒部ダムBOOK」とGoogleより)

ロープウェイの下に黒部ダム湖がくっきりと見えた。この展望台からの後立山連峰を一望できるロケーションは、真っ青な空に切り立った山肌と谷に残る雪の白、そしてダム湖の深い緑が共存し本当に素晴らしかった。

前日に配られたパンフレットにあった運賃を見た時点では、乗車時間の割に片道料金が8290円とは高額だと感じたのだが、それぞれの乗り物が楽しいことや朝から夕方まで一日観光できる事、観光ルートを作るための除雪作業やトンネル等の維持管理などを知ると納得できる運賃である。

さて、雄大な姿を見ることが出来た黒部ダムだが、この大きさをどの様に管理しているのか、雪に包まれた冬季はどうしているのか等の疑問を感じ調べてみた。するとダムの管理は5名ほどの職員がダム横の寮に暮らし行っているという。さらに黒部ダムから下流の黒部川第四発電所までトンネルがあり、発電所から宿泊先であった宇奈月温泉まで鉄道が繋がっており、鉄道が運休の時期は冬季歩道という鉄道の傍にある歩道を歩き必要物資を運ぶのだという。ここでは書ききれないが調べる程に興味は尽きない。



大観峰展望台より

3. 各県のご当地食材

富山県は北に天然のいけすと言われる富山湾があり、白エビやホタルイカが有名だ。特に白エビは深海魚であり、富山湾特有の藍瓶（あいがめ）と呼ばれる海底谷に生息しており、なおかつ富山湾だけで漁獲されている。真っ白いエビを初めて目にしたが、元は無色透明をしており氷のようでとても美しかった。

ホタルイカは、驚いたことに網さえあれば誰でも捕獲できる。こちらも深海に生活しているが、3月から6月の夜に産卵のため海岸付近に大群で押し寄せてくるのだ。丁度シーズン中ということで是非この目で見てみたかった。

ホタルイカは土産としても、生姜で甘く煮込んだものやピリ辛に煮詰めたもの、粕漬や干物など多岐にわたり展開されており、ご飯のお伴に色々な種類を購入した。

また、富山県では昆布を利用した物が多く、かまぼこを昆布で巻いたものや、魚を挟んだものがあった。

長野県に入り安曇野市の特産はわさびだ。途中沢山のわさび田を見かけた。そしてそのわさびと一緒に食べたい長野県産の信州蕎麦は、夕食に訪れた居酒屋にも色々な料理にアレンジされており、中でも生地が蕎麦のピザはカリカリとした触感であっさりと食べられた。普通のザル蕎麦の上にも「信濃の味文化財」の野沢菜漬けが乗っていた。

富山県と長野県を中心とした本旅行での食事は、海鮮や山菜が多くとても体に優しく思ったように思う。そして、魅力的な食材ばかりで予定より多く特産物の土産を購入してしまった。



居酒屋の蕎麦ピザ



火を入れる前の白エビの炊き込みご飯

4. おわりに

今回の旅は、食事も温泉も満喫でき、適度な運動も兼ねながら自然の中で癒されることが出来た。次訪れる時はハイキングコースにチャレンジしてみたいものだ。

立山・黒部旅行記

橋梁構造課 片山 直道

1. はじめに

黒部は近年アジア圏を中心に外国人観光客が増加している観光地である。そんな日本を代表する観光地に、私ははじめて足を踏み入れた。黒部と言えば、黒部ダム。また道中に立ち寄る恐竜博物館などわくわくしながら北陸地方へと旅だった。

2. 旅程

私の参加した第2班は、男性25名女性8名の総勢33名の構成である。

今回の旅程は以下の通りである。

【一日目】福井観光

(高知→伊丹→福井恐竜博物館→宇奈月温泉)

【二日目】立山・黒部観光

(立山→美女平→室堂→大観峰→黒部平→黒部ダム→扇沢→松本市内)

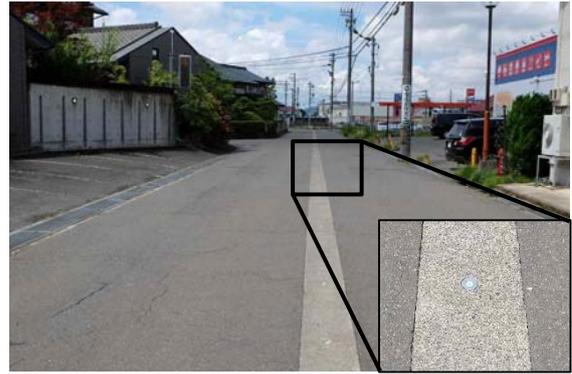
【三日目】松本観光

(松本城→旧開智学校→石井味噌→伊丹→高知)

3. 1日目

早朝高知空港を出発して伊丹へと向かった。伊丹空港に到着後一行は福井恐竜博物館へと向かった。途中昼食のため鯖江市に立ち寄った。鯖江市内に入ると雪国特有の消雪パイプがあちらこちらの道路に設置されていた。ガイドさん曰く雪が降ってなくても温度が一定値を下回ると自動的に散水されるという。消雪パイプの歴史は意外と古く、昭和30年代に柿の種で知られる浪花屋製菓の創業者である今井興三郎氏が、地下水のあふれる場所だけ雪が積もっていないことを発見したのが始まりとされている。

消雪パイプについては、地下水の過剰散水による地盤沈下や冠水など様々な問題があった。現在ではコンピューター制御による地下水位の監視や消流雪用水の設置など対策が進んでいる。



鯖江市を後にし、福井県恐竜博物館へと向かった。恐竜博物館では現代では想像できない生物が展示されており、人類の無力さや自然の壮大さを感じた。



初日の夜は参加者全員による大宴会が行われた。毎度のことながら、年齢関係なく交流を深めることができるこの宴会は社員旅行の一番の魅力であると改めて感じた。



4. 2日目

前日の疲れも残る中、立山・黒部アルペンルートの観光へと向かった。当初雨が予想されていたが、私の日頃の行いのおかげだろうか、なんとか雨は降らずにすんだ。立山雪の大谷は想像以上の絶景であった。



アルペンルートを進み黒部ダムに向かった。黒部ダムは現地で見ると「壮大」この一言であった。黒部ダムでは中国人観光客が増えているならではのアイスがあった。中国人は「金」が好きである。が故にできたであろう金のソフトクリーム。各観光地も顧客変化に対応して変わっていくのだと感じた。



こうして総延長 25kmの旅が終わった。

5. 3日目

最終日、旅行の疲れが残る中、松本市内の観光に向かった。はじめに訪れた松本城では、小さいと思っていたが中に入ってみると歴史を感じる実に興味深い場所であった。松本城には忍者などがおり、また周辺施設も観光地仕様になっており街全体が観光地となっていた。



一行は松本城を後にし、旧開智学校に向かった。旧開智学校は建設に 11,000 円を要した。これは当時の大工の月収(20 円)の 550 倍の金額である。さらに驚くのは、その費用の約 7 割もの金額が松本町民の寄付で賄われたことである。地元が希望し地元が愛した学校が現在では国の重要文化財として守り続けられている。



旧開智学校を後にした我々は、途中石井味噌に立ち寄り昼食を食した後、ふるさと高知へと帰路についた。

6. 終わりに

今回の旅行で普段の疲れを癒やすことができた。また社員同士の交流を図ることができ実に充実した時間であった。また高知とは違う土地に行くことで土木の観点からもたくさんの発見があり今後仕事につなげていきたいと感じた。



最後にこの社員旅行を無事に行うことができたのも、親睦会役員及び日本旅行井上様のおかげである。心から感謝を申し上げたい。



立山黒部アルペン ルート

橋梁構造課 矢野川 稔

1. はじめに

初めての社員旅行は富山県にある立山黒部アルペンルートの旅でした。富山県はホタルイカや海老、蟹など海産物が有名な県です。

2. 初日

旅行初日、7時45分発の飛行機に乗り1時間ほどの空の旅を満喫しました。飛行機では朝も早かったせいがかぐっすりと眠っていました。伊丹まで約1時間のフライトで飛行機に慣れてないのもあり少し酔っていました。

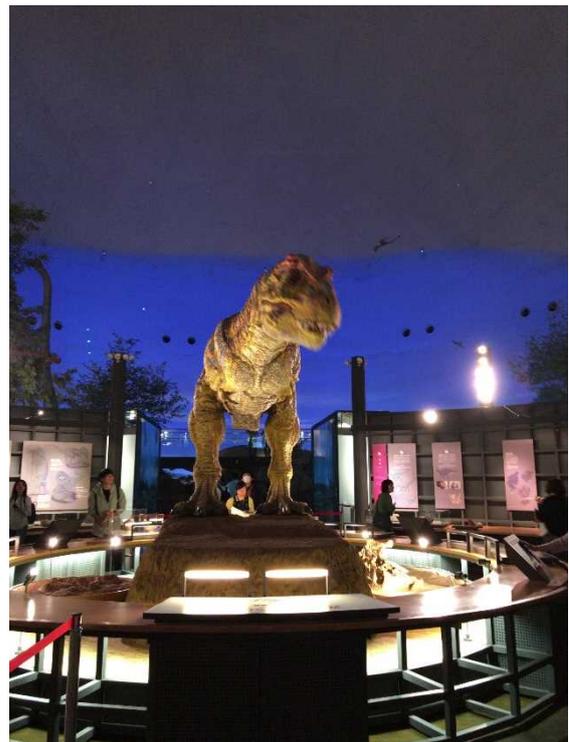
伊丹空港からはバスで約5時間揺られながら移動しました。途中、釜蔵という釜飯専門店のお店で昼食をとりました。移動中ずっと寝ていたため空腹で、とても豪勢な釜飯に食欲をそそられましたが、残念ながら私の苦手な海老や蟹の魚介の釜飯だったので食が進まず、お腹を満たすことができませんでした。

昼食が終わり1時間ほど移動し、恐竜博物館に到着しました。恐竜博物館では子供のようにしゃいでいました。恐竜博物館の規模はとても大きく、たくさんの展示物が並んでいました。

初日は延対寺荘という旅館に泊まりました。旅館に着き、乾杯の音頭とともに宴会が始まりました。カラオケや食事ですごい時間を過ごすことができました。



黒部ダム



ティラノサウルス



延対寺荘の夕食

3. 2日目

2日目は立山黒部アルペンルートの観光でした。旅行前に半袖で回った人がいると聞いていたので私も半袖で行くことにしました。標高が高くなるにつれて寒さと、気分の悪さを感じました。あまりの寒さに半袖で行ったことを後悔しました。

山道を登っていくと徐々に雪が多くなってきました。夏に見る雪景色はとてもきれいでした。道中きれいに整備されていて、毎年除雪費用に1億円かかるそうできれいな景観に感銘を受けました。



雪の大谷

坂を上っている道中、美女平の立山杉が目に入りました。立山に生育する杉はどれも背が低く、それでいて幹は太いのが特徴です。立山杉を過ぎ標高2,450mに位置する室堂平で昼食をとり、お土産をたくさん買いました。

標高のせいかすぐに息が上がったり、疲れたりしました。買い物後は、日本唯一のトロリーバスに乗車しました。狭いトンネルの中を高速で走ります。約15分のトロリーバスを楽しみました。大観峰からのロープウェイは満車で景色も楽しめないほど混んでいました。真っ暗なトンネルを抜けると雄大な黒部

ダムが広がっていました。ガイドさんがこの巨大なダムを作る際、たくさんの工事関係者が亡くなったと話していました。あらためて、ダムの前に立つと大変な工事だったのだと感じました。

黒部ダムを離れ、最後の宿泊となる松本駅前の東急REIホテルに向かいました。



黒部ダム

4. 最終日

最終日はホテル出発後、松本城を訪れました。松本城でもたくさんのお土産を買ってしまいました。松本城の中は古いながらもしっかり手入れされていて、歴史を感じました。



松本城

その後、旧開智学校に行きました。懐かしく思うところもあり、昔の学校を感じさせる教科書や、木の机、いすなどがありました。



旧開智学校



化石

旅行最後は信州、石井味噌で昼食をいただきました。まず、作り方の工程を教えてくださいました。樽職人の人数が減少しており、樽の絶滅する危機だそうでこういった日本の歴史のあるものは日本に残っていてほしいと思います。



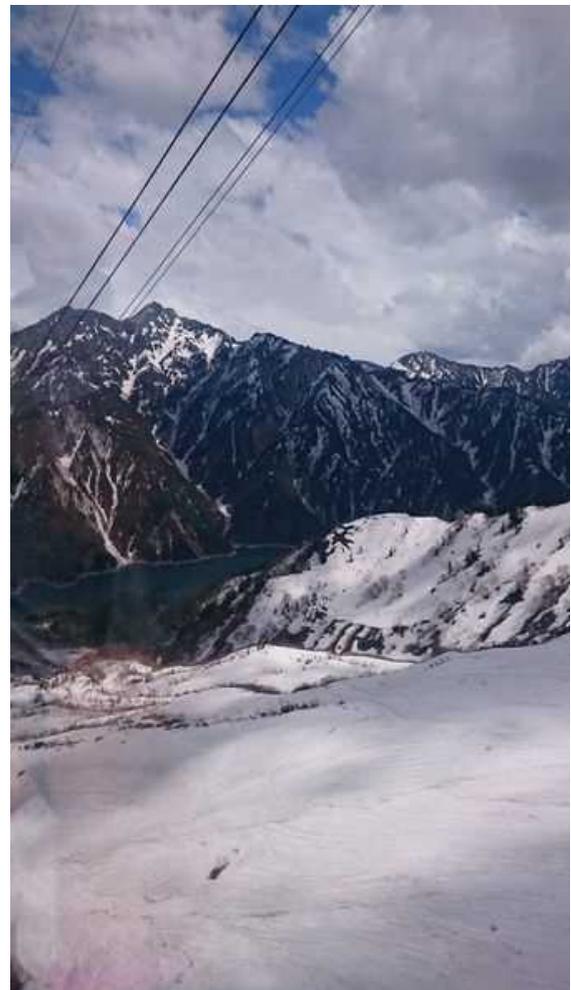
最終日の昼食（信州・石井味噌）

5. おわりに

今回の旅行は新入社員として参加しましたが、先輩社員とのコミュニケーションがしっかりとれた旅行になったと思います。

黒部ダム殉職者が171人ときいて驚いたとともに、たくさんの意思があってこそ作られていることがわかりました。

最後に親睦会役員の皆様に感謝を申し上げたいと思います。



大観峰

立山黒部アルペンルートの旅

橋梁調査課 水田勝也

1. はじめに

今年の社員旅行は、立山黒部アルペンルートの旅2泊3日。参加者は、2班のメンバー33名と添乗員の34名である。大学時代に、河川の調査で白馬村に来たことはあったが、北陸地方の旅は今回が初めてである。今回はオプションツアーもないため既存資料を基に概略の工程や見所を調べていた。2班のメンバーは、若い方が主であったため親睦を図ることを意識して望んだ。

2. 高知竜馬空港～釜めし専門店

高知龍馬空港には、車で向かい集合時間の15分前に到着した。すでにほとんどの方が到着しており荷物を預ける準備をしていた。私も早速手続きを終え、搭乗口に移動した。見慣れない緑色のプロペラ機で伊丹空港へ飛び立った。

伊丹空港からは、名神高速から北陸道を通って鯖江に向かった。現在、リフレッシュ工事が実施されているため、予想通り渋滞に巻き込まれる。第1班は、道中プロジェクトXを觀賞して熱い気持ちになったようだが、第2班は一般的なものであった。お昼の釜めし専門店釜蔵には1時間ほど遅れて到着した。早速、ビールと釜めしを頂いたが食事の準備が早かったせいか釜めしがかなり硬くなっている残念であった。

3. 福井県立恐竜博物館

通常の博物館では、下から見上げて観察する展示手法が多いが、この博物館ではいろんな角度で観察できるため、何度でも楽しめる作りになっていた。想像していた以上に恐竜の模型や骨格の数が多く、観察するルートや縦断勾配をつけることによって視線を替える作りになっており工夫が感じられた。



恐竜の模型

4. 宇奈月温泉

宇奈月温泉には18:00に到着したため、宴会は19:00に変更になった。この1時間に買い物と温泉に行くことにし、宴会後のアルコール飲料を求めて酒屋に向かった。あらかじめ調べておいた富山の日本酒「満寿泉」と「幻の瀧」をお土産として送り、満寿泉を部屋に持ち帰る。続いて旅館の温泉に向かう。時間が無い中、地下の大浴場に行ったが1人しかいなく貸切状態であった。露天風呂に行った方が良かったと若干の後悔はあったが十分満足できた。予定通り19:00に宴会が始まり、楽しい時間を過ごした。途中、今まであまりなかったカラオケもありストレスを発散できて良かった。

5. 立山駅～室堂

立山駅から美女平までは、立山ケーブルカーで10分ほど移動した。標高差500m程度をかなりの急勾配で上昇した。美女平から室堂までは、立山高原バスに乗り換えさらに上昇していく。雪が混じり始め本格的に冬の山に変化していった。室堂では、ターミナルから起伏の少ない遊歩道を数人で散策した。出発した時には晴れており広大な景色やみくりが池を背景に写真を撮影することができた。しかし数分で辺りが暗くなり雨に見舞われることになった。山の天気は変わりやすいとはよく言うが、こんなに変化が早いことに驚かされた。



室堂の景色



黒部ダム



みくりが池前

6. 室堂～黒部ダム

室堂から大観望までは、立山トンネルトロリーバスで10分ほど移動した。その後、立山ロープウェイに乗り換え黒部平に到着した。黒部ダムへは、徒歩で移動した。

黒部ダムは、アーチ式コンクリートダムで発電に利用する水を確保することを主目的として関西電力によって建設された。ダムの高さは186mで日本一を誇り、現在でも破られていない。

黒部ダムでは、腹痛になり体調を少し悪くしたが、220段ある黒部ダムの展望台には全力で駆け上がった。展望台まで登った数人で集合写真を撮影した後、迫力ある黒部ダムの姿や立山連峰をはじめとした北アルプスの山々を眺めることができた。眺望は、本当に素晴らしいので行く価値のある場所である。

7. 黒部ダム～松本東急 REI ホテル

黒部ダムから扇沢までは、関電トンネルトロリーバスで20分ほど移動した。その後、貸切バスを利用して松本東急 REI ホテルに到着した。夕食はフリーであったので同部屋の村岡課長と信州そばや焼鳥などをイメージしながら焼鳥屋に向かった。しかし、満席とのことで対面の串かつ屋で妥協することになった。串かつ屋であったがビールに日本酒、そばまで頂き2時間ほど楽しんだ。帰りには松本駅でお土産を購入してホテルに帰る。

8. 松本城

松本城は戦国時代の永正年間に造られた深志城が始まりで、現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝の城である。戦国時代には、武田信玄が北信濃侵攻の拠点としていたとされており、その後は城主が次々に変わり豊臣時代には石川数正が統治した。

松本城内は土足禁止であり、ビニール袋に靴を入れて、出口まで持ち歩くことになっていた。上階に行くには階段を登る必要があるが、階段というよりハシゴに近い角度(61度)のため、手荷物に加え靴を持って階段を昇降するのは結構きつかった。また、同時に大人数が上下移動できないため、階段部が混雑していた。苦勞して登った後の天守閣からの眺めが安らぎを与えてくれた。



松本城



旧開智学校の教室

9. 旧開智学校

開智学校は、明治6年5月6日、筑摩県学を改め学制による小学校として、廃仏毀釈で廃寺となった全久院の建物を仮の校舎として開校した。開智学校の工事費は、約1万1千円と巨額な建築費であった。しかも工事費の約7割は町民の寄付だったそうである。

旧開智学校には、松本城から数分で到着した。バスを降りると目の前には工事中のお知らせ。塗装の痛みが激しくなったことにより窓枠・扉その他の塗装工事を行うため昨日から工事が始まっていた。外観は足場で覆われ正面のみ観賞することができた。

一番入り口に近い教室に入ってみた。小さい机に小さい椅子が20ほど並んでいた。縦開きの机に驚かされ、コンパクトな机でどのように授業を受けていたのか想像してみた。



工事中の旧開智学校

10. 信州石井味噌

一般的な味噌は、早く出荷するため人工的に添加物を加え、発酵促進剤を入れ1ヶ月くらいで完成、出荷される。殺菌もされるため、酵母、乳酸菌が死滅し、大切な栄養分が死んでしまう。日本の味噌の9割以上がそんな味噌である。石井味噌は、桶で発酵させ人力で入れ替える昔ながらの手法を守り続けていて癌予防、美肌効果など優れた効果をもっているそうである。短い時間であったが、蔵の見学、食事を楽しむことができた。



石井味噌の桶

11. おわりに

今回の旅行では、移動が多かったこともあり、数多くの方と話をする機会が少なかったが、業務で関わりの少ない方とも話ができて親睦を図れた。来年も是非社員旅行に参加したいと考えている。

立山・黒部旅行

橋梁調査課 西森 哲也

1. はじめに

今回 5/25～5/27 の 2泊3日 で福井県、立山黒部、松本市へ行ってきた。すべてが初めての場所である。

2. 5月25日（1日目）

朝 7時 45分 に高知龍馬空港を出発し、伊丹空港を経由して、バスに揺られて 3時間半、福井県に到着。釜めし屋の釜蔵での昼食。その後は福井県立恐竜博物館を見学し、宿泊先の宇奈月温泉に入った。その日に旅館で行われた宴会は、先輩と後輩の垣根を越えた楽しい宴会であった。普段あまり聞くことがなかった後輩社員の仕事だけでなくプライベートな話もあり、親睦を深めることが出来た。



3. 5月26日（2日目）

2日目はこの旅のメインイベントである、雪の大谷からの黒部ダムである。この日高知県では 25度を超える猛暑日であるにもかかわらず、標高約 2,500m 気温約 7℃ の立山では見事な 14m の雪の壁を見ることが出来た。黒部ダムの高さは 186m で日本一を誇りその壮大さは圧巻であった。当日快晴とまではなかったが心配されていた雨もなく十分に楽しむことが出来た。6月～10月の期間は毎秒 10トンの放流が行わる。機会があれば見たいと思う。



4. 5月27日（最終日）

最終日は松本市内観光。松本城は天守が国宝指定された 5城のうちの一つである。天守閣からの眺めは市内を一望でき気持ちよかった。次に訪れた旧開智学校は国の重要文化財である。当日は残念ながら足場が設置されており、外観を見ることが出来なかったが館内はとても雰囲気がありちょっとしたタイムスリップを味わうことが出来た。



5. おわりに

今回は 2班として参加したが、2班は若手社員が多く同世代のメンバー及び新入社員と交流を深めるよりよい社員旅行となった。

最後に当社親睦会の方々、株式会社日本旅行井上様、今回は 2泊3日の貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



社員旅行

橋梁調査課 乾 隼輔

1. はじめに

私は今まで旅行といっても関西地方から東には数回しか行ったことがありませんでした。

今回は立山黒部アルペンルートということでしたが、どんなことがあるんだろうとワクワクでいっぱいでした。

入社して初めての社員旅行でしたので、まずは全力で楽しむことを目標として高知龍馬空港を出発しました。

2. 恐竜博物館

1日目は飛行機とバスで観光というよりは移動がメインでした。まず私たちは福井県にある恐竜博物館にいきました。

初めはバス移動に少し疲れていたのが早く宿泊場所に行きたいということばかり考えていました。

しかし、実際に中を見て回ってみると大昔に生きていた恐竜の化石や実物大の模型、恐竜以外に海洋生物の化石や模型も展示されており、見ていて飽きることがなく、気づけばあっという間に時間が過ぎていました。

恐竜博物館は高知では見ることでできない大迫力の博物館でした。



恐竜



海洋生物

3. 黒部ダム

二日目は本命の黒部ダムを見に行きました。黒部ダムに行くにはケーブルカーやバス、ロープウェイなどいろいろな乗り物を使い、上るにつれて雪が見えてくるようになりました。その中で雪の大谷は特にきれいで、高知県は雪があまり多くないので貴重な経験ができました。

黒部ダムは私が思った以上に山奥にあり、5月末にもかかわらずたくさんの雪が残っていました。1班のメンバーが半袖でも大丈夫と言っていたのが嘘のように外は寒く、普段暖かい高知とは真逆の世界でした。

黒部ダムに着くと想像よりずっと大きく、カメラで全体を写すことが難しいほどでした。黒部ダムから眺める山の景色はとてきれいであまり写真に興味のない私も写真を撮たくさん撮ってしまいました。

今回の旅行の本命に相応しく、とてもよい経験になりました。



雪の大谷



黒部ダム



ダムから撮った山々の写真

4. 最終日

最終日の初めに行ったのは松本城でした。中に入ると外からは見えないところに鉄砲狭間等があり、昔はこの場所が戦場だったということがよく感じられました。

頂上からの眺めは町を一望でき、とてもよい眺めでした。

次に私たちは旧開智学校に行きました。学校で何を見るのかと思っていましたが、実際に見てみると昔の小学生の使っていた校舎や教科書が当時のまま残っており、その時代の雰囲気を楽しむことができました。



松本城から撮った写真



学校で使われていた教科書

4. おわりに

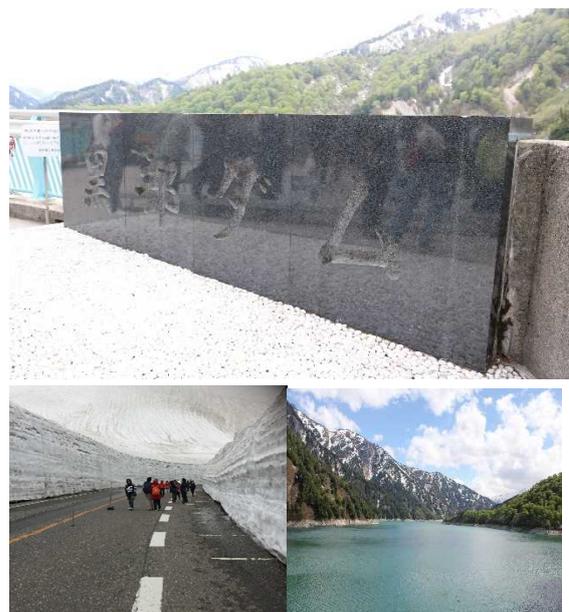
初めての社員旅行でしたが、今回の旅行は今まで私が体験したことのないことを数多く経験できました。

一つだけ心残りは、初めての社員旅行ということで、お金を使うことに臆病になりすぎて、欲しかったものを買えなかったことです。

プライベートでも、機会があれば今回買い損ねたお土産や廻れなかった観光地を廻ってみたいと思います。

また、今回の旅行で今まであまり話したことのない先輩方と話すいいきっかけになり、とても充実した社員旅行でした。

来年はヨーロッパに行く予定と聞いているので今回の旅行を上回るくらい楽しめればと思います。



社員旅行

調査測量課 島内 司

1. はじめに

今回の旅行のメインである黒部ダムに行くのは実は二回目であり、しかも二年前という最近の話である。

二年前に見た黒部ダムは、ただただその大きさに心を打たれたが、今回の旅行で見る黒部ダムはどのように見えるか心を弾ませ旅行に参加した。

2. 福井恐竜博物館

まず、いちばん最初に訪れたのは福井県にある「福井県立恐竜博物館」である。

博物館に入る前、私が想像していたのは、高知県の佐川にある恐竜博物館であったが実際に足を踏み入れると、その大きさと迫力に度肝を抜かれた。



3. 黒部ダム・アルペンルート

到着して真っ先に感じたのは「寒い」でした。二年前同じ時季に訪れた際はそれほど寒さを感じなかったので薄着でも大丈夫だろうと考えていましたが、その考えは甘く終始寒さを感じる羽目になった。



寒さに耐えながら、見た雪の大谷はとても神秘的で感動を覚えました。



今回の旅行のメインである黒部ダムは何度見ても素晴らしかった。

私も一土木の技術員として、こういった誰もが知り、観光名所になるような構造物の建設等に携わりたいと改めて思いました。



4. 松本城・旧開智学校

旅行最終日に訪れたのは、長野県にある松本城と旧開智学校である。

国宝である松本城は城が美しいのは勿論、城の周りも緑に溢れ国宝に選ばれる由縁が分かる気がしました。



旧開智学校は明治時代初期から変わらない校舎で有名という事だが、実際に校舎内に足を踏み入るとテレビや映画などでしか見たことのない光景が広がっていました。

まるで自分が明治時代までタイムスリップしたかのような感覚に陥るほどでした。



4. おわりに

私は今回の旅行で改めて日本の素晴らしさを感じることが出来ました。

去年の研修旅行で初めて海外に行き海外に対して強い憧れを感じましたが、国内にもまだまだ自分の知らない素晴らしい場所が沢山あると思うので、精一杯仕事に励みまた来年も社員旅行に行けるよう会社に貢献していきたいです。



「立山黒部アルペンルート」

調査測量課 中越 紀子

1. はじめに

5月25日～27日で2泊3日の立山黒部アルペンルート旅行に参加しました。

前日までは良い天気だったのに、出発当日はあいにくの雨、黒部の天候、気温も気になりつつ初めての信州旅行へ出発となりました。

2. 観光

【1日目】

8時30分伊丹空港到着後、貸切バスで移動。途中、釜めし専門店 釜蔵で昼食を摂り、福井県立恐竜博物館見学へ。

国内最大の博物館の見どころは、なんとと言っても、44本もの恐竜全身骨格。その他の化石に関する資料なども展示していて、大人も子供も楽しめる大迫力のある博物館でした。

博物館見学後、この日の宿泊先宇奈月温泉へ移動。到着後夕食までの間、女性8人で旅館周辺を散歩に出掛けました。途中、足湯があったので入ってみることにした。お湯の温度は40度、最初は熱いと感じたが慣れてくると気持ち良く足の疲れが取れて軽くなった感じがしました。



恐竜博物館



皆で足湯

【2日目】

この日は立山黒部アルペンルート。

立山駅から、ケーブルカー、高原バス、トンネルトロリーバス、ロープウェイ、ケーブルカーを乗り継ぎ黒部ダムへ。

室堂の「雪の大谷」は今年最高19mで、この日は14mでした。両側に切り立った雪壁は、テレビ、雑誌で見たことはありますが、実際に見ることができて良かった。ダムえん堤からの黒部湖、目の前の北アルプスも絶景でした。しかし、昭和31年当時の技術を考えると、今に比べたらダムを造るのは大変な作業だったと思います。ダム建設で171名の方が命を落とされている。改めて黒部ダムの凄さを感じました。





ダム全景



この日の夕食はフリーだったので、女性全員で駅近くの居酒屋さんに行き、お蕎麦や蕎麦のピザなど皆でわいわいと楽しい夕食。



松本での夕食

【最終日】

8時30分ホテルを出発し松本城へ。

松本城は豊臣秀吉に仕えていた、石川数正・康長親子によって建てられた物で、秀吉の大阪城にならった黒壁。6階建てのお城の中では展示物や歴史を見ることができる。

松本城は、昔のまま残っているので、風格があつてとても素敵なんですけど、階段の角度が急で、まるでハシゴを登っている感じでした。次の日、筋肉痛になりました。



松本城

階段

旧開智学校は、5月25日から外観工事が始まっていて足場が生まれシートが張られていて残念でしたが、中には教科書や教材などの資料がたくさん展示されていました。



小学国語読本 巻一

石井味噌では、大樽で発酵させる昔からの作り方で、1年蔵から2年蔵、樽から樽に手作業で入れ替えをしていると説明を受けました。見学の後、昼食をいただき味噌汁、焼きおにぎり、味噌田楽などどれも絶品で美味しかった。三年蔵赤味噌、三年味噌ドレッシングを購入。



1年蔵

3. お土産

松本駅近くのお土産さんに出掛けた。今回は、お土産は控えめにしようと思っていたのに、ホテルに帰ってみれば、信州蕎麦、りんごを使ったお菓子などスーツケースに入りきれないほど購入していました。

4. おわりに

今回初めての信州旅行。個人では行く事はなかったであろう信州に行く事ができ、観光を通して歴史や大自然に触れる事が出来ました。バス移動が多く、体力的にきつかったけど、楽しい旅行でした。

ありがとうございました。

社員旅行

調査測量課 吉田直起

1. はじめに



高知県は、四万十川、仁淀川、物部川等の清流が多く流れていますが、立山のように積雪となっている景色は見れません。そこをバスが通過できること、普段と違う体験ができることに対して興奮する思いで社員旅行をスタートしました。

2. 福井県立恐竜博物館

小さい頃に憧れていた恐竜発掘の夢。幼少期の頃は、化石の発掘が好きだった時期もあり、恐竜に対してロマンと不思議な思いがありました。

見学時間は1時間と少ない時間内ですべてを回るのは難しかったので、肉食恐竜をメインにして回るようにしました。44体もの恐竜が展示されていましたが、その中でも「ティラノサウルス・レックス」の全身骨格。骨格全長11.2mもあり、迫力があるものでした。



写真1 「ティラノサウルス・レックス」の展示物

3. 立山アルペンルート

ついに今回の目標である立山黒部アルペンルートに到着しました。立山黒部地域は、世界に誇る貴重な自然財産として、動植物を保護している場所です。

立山に生息する「雷鳥」は特別天然記念物に指定されており、1班が写真に納めているのを見て自分も見たいという好奇心からいつの間にか雷鳥を探すことが目的になっているような気がしました。標高2,400m以上の高山に生息する雷鳥は、天候の影響もあって確認できるか心配でしたが、確認がとれて満足です。



写真2 みくりが池付近に生息する雷鳥

4. 黒部ダム

日本一を誇るアーチ式コンクリートダム。日本を代表する構造物とも言われるので、一度は見たいと思う好奇心と、今回の社員旅行で見れるとのことで期待を膨らましていました。

高さ186m。日本一を誇る構造物を間近で見れたこと、いかにダム建設工事が苦難を極めたのかが伝わってきました。また、放水期間ではなかったので残念な気持ちもありましたが、ダム展望台からの黒部ダムと黒部湖のパノラマは、絶景でした。



写真3 ダム展望台から望む黒部ダム及び黒部湖



写真 4 ダム展望台での記念撮影

5. 松本城

国の重要文化財の松本城。天守閣にのぼるのは初めてのことでした。戦国時代の主要な人物、織田信長、徳川家康、豊臣秀吉等を筆頭にその時代に活躍した武将には興味がありました。いざ上ると、「難攻不落の城」と言われているように城内は敵が上りにくいように階段は激しい勾配で建設されていました。

その当時の火縄銃も種類が多く展示されていて見ている人がその当時の戦い方について感じさせられるものでした。



写真 5 天守閣内に展示されていた大型火縄銃と馬上筒

6. 石井味噌

味噌にこだわりがなかった自分でしたが、実際に「信州・石井味噌」の仕込みについてお話を聞く機会がありました。

味噌の中心等にムラがでてくるので、全体を均一に熟成させるために「天地返し」をするそうです。それは、スコップを使って他の蔵に移すと言った作業工程で、今の時代には考えられないような労働作業だと感じました。



写真 6 信州・石井味噌内にある「蔵」

7. おわりに

2班の社員旅行では、雨の予報だったので、今回の目的とする立山アルペンルートから見える絶景に対して不安がありましたが、なんとか天気が崩れることなく楽しめたので良かったです。社員旅行に携わってくれた方々本当にありがとうございました。



写真 7 黒部ダム付近で撮影

立山黒部アルペンルート

調査部 調査測量課 小島由佳

1. 旅行前

高速道路の JCT での立体交差、大きな貨物船、瀬戸大橋等の大きな橋などの人が造った巨大な物が好きな私は、社員旅行の行き先が黒部ダムに決まったときから楽しみだった。

2. Day1

(福井県立恐竜博物館・宇奈月温泉)

下へ下へ降りて行く、長く、先が薄暗いエスカレーターがもう既に楽しい。こんなにエスカレーターが長いということは、地下にかなりの空間が広がっているということだからだ。銀色の球体という博物館の外観のインパクトと、中に入ってから、どこかの秘密基地へ来たような近未来感に、ワクワクしつつ進んでいくと、実寸大のティラノサウルスが動いていた。恐竜の全身骨格の展示などを見て、主にこんな生き物が生きていた時代があったのだと思うと、今自分が生きている時代との差に生命の進化を感じた。いつか進化した生命体に「こんな時代があったんだな。」と思われるかもしれない。と思いながら、恐竜の骨ごしに、生命の歴史が見えた。



1 日目に泊まる延対寺荘の近くに宇奈月公園があり、その公園に足湯があった。さすが温泉街。いそいそと靴下を脱ぎ、ちゃぷんと足を湯につける。熱い。めっちゃ熱い。長く足をつけたままでおれんくらい熱い。5分程度、足しか湯につけていないのに巡る血が温まった感じで、全身がぼかぼかしてくる。気持ちよかった。



3. Day2

(雪の大谷・黒部ダム・名物料理)

この旅行のメイン。立山の雪の大谷と黒部ダムに向かって出発。雪の大谷に向け美女平から高原バスで、くねくねと山を上がっていく。車窓から見える景色が、春→初春→冬の終わり→冬と、どんどん季節を逆に巡っているようで不思議な感じだった。標高が上がるにつれ、残雪がすごく多くなった。道路脇の積雪もだんだんと高くなっていく。高知市内はあまり雪が降らないので、つい景色に夢中になっていると室堂に着いた。歩いて雪の大谷まで行く。19mもあるという今年1番高く積もっている地点を前に写真

を撮りながら、一体どうやったらこんなに垂直に除雪出来るんだろうと不思議だった。なんだかバスが低く見える。



ロープウェイで黒部平まで降り、お土産屋さんでわさびコロッケを食べた。コロッケの中がずんだ餅みたいにキレイなみどり色をしていた。意外とわさびがきいて鼻にツンツンくる。綺麗な景色を見ながら食べると、より美味しく感じるのはなんでだろう。そして甘い物は別腹と自分に言い聞かせ、富山ブラックソフトクリームも食べた。ビターチョコ味で美味しかった。

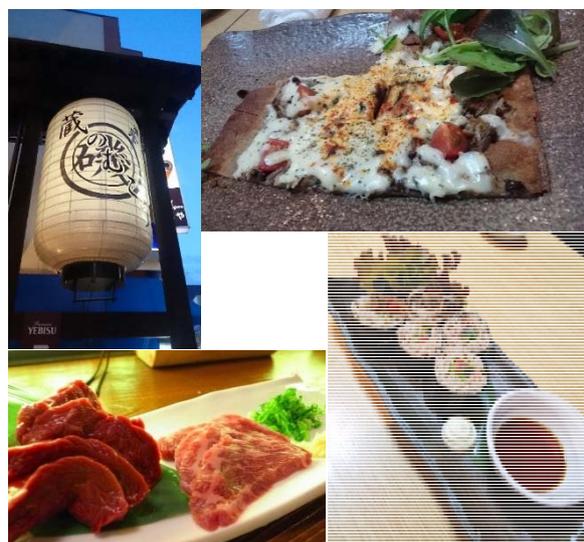


ケーブルカーで黒部湖まで降り、ついに黒部ダムに到着する。堰堤上の歩道から谷をのぞき込むと、谷底までの高さで背筋がぞわぞわした。それと同時に、堰堤の河床へのびるキレイな曲線にうっとりする。こういう巨大な構造物の、コン

クリートで出来た無機質な曲線の感じが好きだ。逆を向けば、黒部湖の奥に北アルプスがある。黒部ダムのスケールの大きさに圧倒されたまま、2日目の松本市内のホテルへ向かった。



2日目の夜ごはんはフリーだったので、松本駅近くの「蔵のむこう」というお店で食べた。ダムを歩き回った日だったので、ビールの一口目が格別に美味しかった。信州そば、山賊焼き、信州サーモン、馬刺しなど定番の信州名物を食べた。馬刺しを初めて食べたが、全然クセがなくてあっさりしていた。変わった品だと、板切そばのピザ風や、そばロールがあった。8人で夜ごはんを食べに行っていたので、少しずつ色んな品を楽しむことが出来た。



4. Day3

(松本城)

ホテルからバスに乗り、15分ほどで松本城に着く。山の上というわけでもなく、高知城のように立体的な地形ではない。外堀と内堀があるが、黒門をくぐると整備された庭園の向こうに、平地続きにお城がある。天気にも恵まれ、空の青さと松本城の黒というコントラストが際立っている。たたずまいが渋い。でも、これでは攻め込まれ放題ではないだろうかと心配になった。最上階の天守を目指して階段をどんどん上がっていく。階段の1段1段が高く、幅が狭い。ようよう最上階に着くと、松本市内の景色が一望できた。



5. 旅行後

業務で関係のない普段話さない人と、今回旅行に参加することで話す機会が出来たり、普段話してる人でも知らない一面を知ることが出来たり、個人的な旅行では行かない場所に行けたりと、帰りのバスに揺られながら、有意義で楽しかったなあと思い返していた。

黒部ダムの旅

調査部調査補償課 山本 直也

2017/5/25 - 2017/5/27

1. はじめに

ぼんやりながら、黒部ダムに行ってみたくてずっと思っていました。行き先が決定してからは、地図を眺めてルートを確認して楽しみにしていました。

2. 黒部ダム前夜

高知龍馬空港を出発し、伊丹空港に到着後は、ひたすらバス移動でした。名神高速道から北陸自動車道に入り、途中、福井県立恐竜博物館を訪ねました。その後は、石川県の日本海沿いをひた走り、富山県黒部市の宇奈月温泉延対寺荘にて宿を取りました。



福井県立恐竜博物館にて



延対寺での夕食

3. 黒部ダム!!

曇りがちの空でしたが、バスで旅館を出発し、立山駅からは、ケーブルカー、貸切バスと乗り継いで、室堂まで移動しました。「立山雪の大谷」では天候に恵まれませんでしたが、トンネル内を走行するトロリーバスで大観峰まで上がった頃には、雲の切れ間に青空ものでしていました。



立山駅のケーブルカー乗り場



曇り空の立山にて



大観峰から黒部湖を望む

そして、いよいよ黒部ダムへ。堰堤を歩いて、その大きさ、高さに圧倒されました。時間はあまりなかったのですが、展望台まで上がり、絶景を堪能しました。



黒部湖行きのケーブルカー



ダム堰堤から黒部湖を望む



展望台からダムを望む

4. 帰高

最終日は、松本城、旧開智学校を見学し、昼食は松本市の信州石井味噌さんでいただきました。こだわりの味噌料理は大変美味でした。

帰りもまたひたすらバスで移動し、伊丹空港→高知空港便で帰高しました。



松本城



工事中の旧開智学校



石井味噌での昼食

5. おわりに

すばらしい景色が見られて、大変有意義な旅となりました。大きな事故等もなく無事帰宅でき、ほっとしています。機会があればぜひまた足を運んでみたいと思いました。また、計画・準備・運営等していただいた関係者の方々には深く感謝いたします。

2017年社員旅行

調査補償課 那須 太郎

1. はじめに

毎年、この時期になると社員旅行が恒例となり、いつも参加させて頂いている。今年の旅行先は富山県・長野県である。5/25(木)～5/27(土)の2泊3日の旅だ。

2. 5月25日(1日目)

およそ1日掛けて、宿泊先である富山県の宇奈月温泉に向かう。7時45分に高知龍馬空港を出発し、伊丹空港へ。さらにそこから貸切バスに乗り、目的地に向かう。

途中、福井県にある釜めし専門店の釜蔵で昼食を済まし、福井県立恐竜博物館の見学も行った。

無事に宇奈月温泉に到着。皆で宴会を行い大いに盛り上がった。露天風呂にも入る事ができて良かった。部屋に戻ると、なぜかトランプ。夜遅くまで異様に盛り上がっていた。

3. 5月26日(2日目)

2日目は、立山黒部アルペンルートへ。今回の旅行のメインであり、個人的にもかなり期待している。

雪の大谷は立山黒部アルペンルート沿いで最も積雪の多いところだ。雪の廊下の壁がとても有名である。私たちが訪れたときは14mもの雪の壁を見ることができた。

黒部ダムは、高さ186m、長さ492m日本最大のアーチ式ドーム越流型ダムである。大自然の中、幾多の困難を乗り越えて昭和38年に完成した世紀の大事業と称される程の黒部ダム。やはり壮大で迫力は堂々たるものだった。毎秒10トン以上の放水姿もいつかは見てみたい。また、積雪のない時期にも一度は訪れてみたいと思った。

観光が終わり、長野県松本市のホテルに向かった。



4. 5月27日(最終日)

最終日は、松本城と旧開智学校を観光し、信州石井味噌で昼食。

松本城は、現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝の城である。天候にも恵まれ、黒と白のコントラストがアルプス山脈に映えて見事な景観であった。



旧開智学校は、重要文化財である。和風と洋風の入り混じった擬洋風建築の校舎は、心なしか見えていて落ち着く空間であった。ただ、足場が設置されており、外観をはっきり見ることができず残念に思う。

昼食後、貸切バスで伊丹空港に向かう。そこから高知龍馬空港へ。

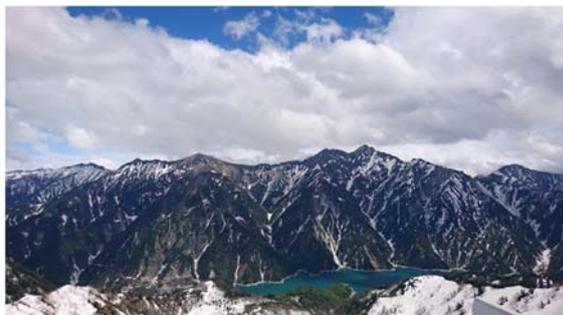
5. おわりに

旅行を終え、皆とさらに親睦を深めることが出来たと感じている。移動がほとんどで辛い所もあったが、アクシデントも無く、とても充実した3日間を過ごすことができた。

ありがとうございました。

立山黒部

調査補償課 窪添智津子



1. はじめに

5月25日から5月27日の日程で社員旅行に参加しました。今年のコースは立山黒部アルペンルートです。一週前に第1班が行っており、私は、第2班での参加となります。

1日目 高知→福井(恐竜博物館)→富山(宇奈月温泉)泊

2日目 富山(立山黒部ダム)→長野(松本)泊

3日目 長野(松本城, 旧開智学校校)→高知
雨の出発になりましたが、目的地に着くと陽ざしが眩しいほどでした。

2. 宇奈月温泉

伊丹空港からバスで福井県立恐竜博物館を見学し、今日の宿泊地である宇奈月温泉へと到着。宴会までの間に見つけた足湯や、夜は露天風呂に浸かり日頃の疲れもとることができました。



3. 立山雪の大谷

雪の大谷は春の風物詩。高地にあるため5月とは思えない雪の光景が自分の眼前に広がっていました。テレビで何度かみたことのある光景でしたが、いざ直接現地で見ると大迫力に圧倒されます。



脇を通る観光バスと比較してもその高さが伝わるでしょうか…ただただ圧巻としか言いようがありません。もしかしたら自分が人生で見た最大の雪景色かも…雪の壁は現在14mとのことですが、今年最高箇所は19mあったそうです。



立山雪の大谷

4. 黒部ダム

「プロジェクト X」で黒部ダムの特集を見たことがあります。昭和31年7月、建設資材を運ぶためのトンネル工事から始まったそうです。当時は80メートルの破砕帯を突破するのに7か月もの期間がかかったという事でした。トロリーバスで通過するとき青い看板と照明で記されていましたが数秒とかかりませ

んでした。今であればもっと楽にできたかもしれないダム工事を、戦後のたいへんな時にダムを建設し何人もの人が犠牲になりながらも何年もかけて手作りで作ったかと思うと胸が痛くなります。7年後の昭和38年に完成。とてつもなく大変な労力と犠牲を伴った作業のもとに完成したということがわかりました。



黒部湖



5. 松本城

松本城は五重六階の天守としては日本最古の天守だそうです。鳥城と呼ばれ、後ろにはアルプス山脈が見え、黒と白のコントラストが美しいお城でした。

この松本城は高台に作られたのではなく「平城」というタイプの城だそうです。



松本城

入城すると急な階段が多く、のぼりりづらく階段というよりハシゴに近い角度でした。手摺りをしっかりもって上り下りしないと危なく、勾配は、 55° ~ 61° あります。一番険しかったのは、4階の階段でした。



お城の最上階の真ん中には、松本城天守のご神体である二十六夜神が祀られていました。



6. おわりに

黒部ダムでの観光放水は6月26日からで見ることはできませんでしたが、雄大な景色はただただ圧巻でした。

この命がけの工事に携わった方々は、今このような観光地になり、年間100万人の観光客が訪れ賑わっているとは想像していなかったのではないのでしょうか。

立山黒部に一度は訪れてみたいと思っていた場所でした。今回の旅行に参加でき貴重な時間を過ごすことができました。親睦会の皆様、お世話下さった皆様に感謝します。ありがとうございました。

平成 29 年度 社員旅行レポート

～ 立山黒部アルペンルート ～

調査部空間情報課 長崎 悟史

1. はじめに

平成 28 年 5 月 25 日～27 日（2 泊 3 日）の日程で立山黒部アルペンルートの社員旅行に参加した。私にとって富山県は初めてであり、自身で計画して旅行に行くことの少ない私にとっては、貴重な経験である。

2. 初日

初日は、高知龍馬空港から伊丹空港へ移動し、バスで富山県黒部市の宇奈月温泉へと向かった。

途中に昼食として、釜めし専門店「釜蔵」で豪華なカニ釜飯（写真-1）をいただいた。昼からビールが飲める喜びを噛みしめながら、量の多かった釜飯もなんとか食べきった。



写真-1 昼食のカニ釜飯

昼食後、バスに乗って 1 時間ほどで福井県立恐竜博物館に到着した。博物館前の大きな恐竜のオブジェ（写真-2）が印象的で、中には様々な恐竜の化石や実物大の恐竜の人形等が展示されており、興味深く見学することができた。



写真-2 福井県立恐竜博物館前のオブジェ

博物館見学後、バスで約 3 時間、ようやく初日の宿泊地である宇奈月温泉に到着した。ホテルに着くと、まず同室者 4 人で近くの酒屋に行き、夜のための酒を調達した。その後に宴会（写真-3）で大いに飲み、ホテルのラウンジでの 2 次会も終わった後、温泉に入り疲れを癒やした。温泉から戻るといつのまにか部屋には人が溢れかえっており、調達しておいた酒でさらに飲み、初日は終了した。



写真-3 宴会風景

3. 2日目

2日目は、今回の社員旅行のメインであるアルペンルート、黒部ダムの観光であった。昨日の飲み過ぎが祟り、完全に二日酔い状態でケーブルカーや高原バス等乗り継ぎ、目的地へ向かった。心配していた天候も曇りで日光の反射も気にならず、雪の大谷（写真-4）を満喫できた。ただ、以前テレビで見た雪の大谷は真っ白で非常にきれいな印象であったが、バスの排気ガスの影響なのか実物は雪が少し汚れており、その点は残念だった。



写真-4 雪の大谷

その後、さらにロープウェイ等乗り継ぎ、黒部ダム（写真-5）に到着した。このころには完全に二日酔いからは復活し、黒部ダムの壮大なスケールに感動を覚えた。



写真-5 黒部ダム

その後は2日目の宿泊地である松本市のホテルに向かい、到着後は自由行動であったので、同室者と共に居酒屋等で松本の夜を満喫し、2日目は終了した。

4. 最終日

最終日は、国宝である松本城（写真-6）を観光し、昼食等を経て帰路についた。



写真-6 松本城

5. 最後に

今回初めての立山黒部アルペンルートの旅行であったが、十分に満喫できた。また、普段接することの少ない社員との交流もできたことをうれしく思う。

以上

社員旅行

立山黒部アルペンルートの旅3日

H29.05.29

空間情報課 岡 勇仁

はじめに

入社して二ヶ月目に行われた社員旅行に参加した。旅の目的は、黒部アルペンルートと黒部ダムの見学である。私自身あまり旅行の経験はなく、楽しみの反面不安も少し混じった心持ちであったが、丁寧なガイドさんの案内と先輩の方々のおかげで心置きなく楽しむことができた。

一日目

初日の朝、高知空港から出発し、まずは大阪伊丹空港を目指して移動を開始した。搭乗したのは小型のプロペラ機(写真-1)で、滑走時の音と振動に少し驚いたが、これもまた貴重な体験の一つになった。



写真-1 小型のプロペラ機

釜めし専門店 釜蔵

旅行の楽しみの一つに食事がある。最初の昼食となったのは、贅沢に使われたカニをご飯の上に乗せた釜飯(写真-2)であった。昼間から飲めるビールに喜びと若干の背徳感を感じつつ満足した食事をいただいた。



写真-2 釜蔵

福井県恐竜博物館

バスから景色を眺めていると銀色の玉子のようなドームが見えてきた。そこが目的地の恐竜博物館(写真-3)であった。中では様々な恐竜の剥製や化石が展示されており、当時の環境を再現した動画等が流れていた。



写真-3 恐竜博物館

宇奈月温泉

一日目の晩は温泉に宿泊し、宴会(写真-4)があった。普段話す機会のない先輩方と話をすることができ、とても楽しい時間を過ごした。その後、温泉に入り長時間のバスの疲れを癒

すことができました。



写真-4 宴会

二日目

アルペンルート (道中)

二日目は立山駅までバスで移動後、ケーブルカーやロープウェイを利用し黒部ダムへ向った。道中は絶景で、雪の壁で出来た道や綺麗な山脈があった。雪にかかわる機会の少ない高知県民としては、皆感動を覚えたのではないだろうか。毎年10億円もの費用をかけて除雪・整備を行っていると聞き、その価値ある雪の大谷を体験させていただいた。



写真-5 道中の山脈

黒部ダム

到着した黒部ダムでは、幸い天候にも恵まれ、キラキラと反射する水に囲まれた素晴らしい景色を眺めることができました。ダム湖(写真-6)の規模は2億立方メートルで、毎秒10立方メートルもの水を放水できる能力がある。

残念ながら放水を見ることは叶わなかったが、その大きさについて見惚れてしまった。



写真-6 ダム湖

自由時間(松本市)

二日目の夜は自由行動で、先輩や同期数名と居酒屋へ行き、名物の山賊焼きや馬刺し(写真-7)を食べながら話に花を咲かせた。



写真-7 馬刺し

三日目

松本城

三日目は松本城(写真-8)を見学した。城内には非常に急な階段があり、年配の方はかなり辛いのではないかと心配するほどであった。城には敵から身を守るための工夫多くがあった。城周辺の土産屋の豊富さに目を奪われ、あっという間に時間が過ぎた。



写真-8 松本城

旧開智学校

明治時代からの建造物である旧開智学校(写真-9)では、戦前から戦時中にかけての教育方針の移り変わりが資料に残されていた。戦前は、女性が学ぶ時間が男性よりも短かったことや、成績に応じてクラスが分けられる制度であったが、差別を生むため廃止となったことなど、当時の時代感は現代とは大きく違うと考えさせられた。



写真-9 旧開智学校

信州 石井味噌

最後の昼食は石井味噌という味噌専門店、初めに味噌の製造法や種類について説明を聞き、その後様々な味噌を使った料理をいただいた。三年味噌の味噌汁や十年味噌の田楽、味噌のドレッシングからデザートアイスまで味噌尽くしの食事であった。あまりにも美味しかったため、お土産として3年味噌を買って帰り、朝食の味噌汁として重宝している。



写真-10 石井味噌

おわりに

正直なところ、社員旅行に行く前はあまり乗り気でなかったが、実際に行ってみるとあっという間の三日間であった。内容も充実していて、多くの先輩方と話ができとても楽しい時間を過ごすことができた。今後、県外や海外など行く機会もあると思うが、今よりも多くの気の合う仲間と、より楽しい旅行にしていきたいと思う。

旅行に参加した皆様、三日間お疲れ様でした。